

日向市学校施設長寿命化計画

令和3年3月

日向市教育委員会

も く じ

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	学校施設長寿命化計画の背景・目的等	2
1	背景	
2	目的	
3	計画期間	
4	対策の優先順位の考え方	
第 3 章	学校施設の目指すべき姿	3
第 4 章	学校施設の状況	4
1	学校施設一覧	
2	学校施設の配置状況	
3	人口の推移と将来推計	
4	児童生徒数の推移と学級数の推移	
5	小学校区別人口推計	
6	学校施設の保有量	
7	施設関連経費の推移	
8	今後の維持・更新コスト（従来型）	
第 5 章	学校施設の実態調査	1 4
1	調査の実施方法	
2	健全度の判定結果	
第 6 章	保全に係る基準等の設定	1 8
1	長寿命化の基本方針	
2	目標耐用年数の設定	
3	修繕・改修周期の設定	
第 7 章	学校施設整備の基本的な方針等	2 2
1	将来の学校施設の在り方及び少子化に伴う施設の検討	
2	施設の適正規模の検討	
3	今後の学校施設の検討	
第 8 章	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	2 5
1	改修等の整備水準	
2	維持管理の水準・手法等	
第 9 章	長寿命化計画の策定	2 8
1	保全優先度の設定	
2	今後の維持・更新コスト（長寿命型）	
3	今後の実施計画	
第 1 0 章	長寿命化計画の継続的運用方針	3 4
1	施設情報の整理	
2	推進体制等の整備	
3	フォローアップ	

第1章 はじめに

本市では、平成28（2016）年11月に「日向市公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」という。）を策定し、将来にわたる公共施設マネジメントの推進のための基本的な考え方を取りまとめ、“将来世代に負担を残さない最適な公共施設の保有とサービスの提供”の実現を目指し、公共施設の安全・安心の確保、総量の最適化（普通会計における建物系施設の総延床面積の30%削減）、ライフサイクルコストの縮減に取り組んでいます。

図1 総合管理計画の基本理念・基本目標の体系図

基本理念

将来世代に負担を残さない最適な公共施設の保有とサービスの提供

基本目標（公共施設マネジメント三原則）

■ 安全・安心の確保

○ 定期的な点検・診断を行い、適切な維持管理と耐震化に取り組めます。

■ 総量の最適化

○ 社会情勢や市民ニーズを見極めながら、公共施設の新規整備の抑制、有効活用、統合（集約、複合化、転用）、廃止を推進します。

数値目標

普通会計における建物系施設（総延床面積）の30%削減

■ ライフサイクルコストの縮減

○ 公共施設の長寿命化を図り、維持管理方法の見直しや公民連携によるライフサイクルコストの縮減に努めます。

本計画は、総合管理計画に基づく施設分類ごとの個別施設計画（学校施設）として位置付け、各施設の具体的な取り組みの内容を示すものです。

図2 個別施設計画（長寿命化計画）の位置付け

日向市公共施設等総合管理計画（公共施設マネジメントに関する基本計画）

個別施設計画（長寿命化計画）

【施設分類】

（建物系施設）

- ・庁舎、消防施設
- ・福祉施設、保健衛生施設
- ・環境衛生施設
- ・農林水産施設、商工観光施設
- ・学校施設、教育施設
- ・公営住宅施設
- ・その他の施設

（インフラ系施設）

- ・道路、橋りょう
- ・公園
- ・水道施設
- ・下水道施設

※施設分類等の区分は現時点のものであり、今後変更する場合があります。

第2章 学校施設長寿命化計画の背景・目的等

1 背景

全国の地方公共団体では、昭和35（1960）年代～昭和45（1970）年代に公共施設が集中的に整備され、その公共施設の建て替えなどの更新時期を一斉に迎えようとしています。

また、少子高齢化の急速な進行に伴い、扶助費等の社会保障関係費は増加傾向にあり、財政状況が年々厳しさを増している中で、今後は全国的に既存公共施設等の更新に充当できる財源は減少傾向にあります。

さらに、人口減少等によって既存の公共施設等に対する需要が変化していくことが予想されることも踏まえ、既存の公共施設等の状況を把握するとともに、適正な供給量や配置を実現することが、全国共通の課題となっています。

このような状況を踏まえ、国は、平成25（2013）年11月「経済財政運営と改革の基本方針～脱デフレ・経済再生～」（平成25（2013）年6月14日閣議決定）において、インフラの老朽化が急速に進展する中、「新しく造ること」から「賢く使うこと」への重点化が課題であるとの認識のもと、「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、平成26（2014）年4月に全国の地方公共団体に対し、「公共施設等総合管理計画」の策定要請を行いました。これにより、全ての地方公共団体は、庁舎・学校などの公共施設、道路・橋りょうなどのインフラ資産など全ての公共施設等を対象として、財政見通しとライフサイクルコスト（LCC）に配慮した「公共施設等総合管理計画」を平成28（2016）年度までに策定することを要請されました。

本市においても厳しい財政状況が続く中、所有する公共施設等は老朽化が進んでおり、今後、維持・修繕の需要はますます増加し、最終的には将来の建て替え需要の集中的増大に直面することが予想されます。また、人口減少、高齢化等により今後の公共施設等の利用需要が変化していくことが見込まれ、公共施設等を総合的に管理していくための指針である「総合管理計画」を平成28（2016）年11月に策定しました。

総合管理計画の策定後は、公共施設等の改修及び更新について具体的な管理計画（個別施設計画）を策定するものとされており、本計画は学校施設に関する具体的な計画として位置付けられるものです。

2 目的

日向市学校施設長寿命化計画（以下「本計画」という。）は、上記の背景を踏まえて学校施設を総合的な観点で捉え、構造躯体が健全で長寿命化が可能な施設については長寿命化することを前提に、適正な改修・維持保全に努めることで、安全・安心な教育環境を整備し、併せて教育内容や教育方法の多様化に伴う校内通信網整備や、少人数・習熟度別学習への対応、省エネ化、バリアフリー化など教育環境の質的な向上に努めていくとともに、中長期的な維持管理コストを検証し、将来掛かるコストの縮減と平準化を図ることを目的に策定しています。

今までは老朽化の進んだ学校施設について40～50年程度で改築を行ってきましたが、市内の多くの公共施設が更新時期を迎えており、現有する学校施設を躯体の耐用年数まで長く使い続ける長寿命化改修に取り組むことで、中長期的な財政負担の軽減を目指します。

3 計画期間

計画期間は、総合管理計画の見直し等を考慮し、令和2（2020）年度から令和8（2026）年度までとします。

4 対策の優先順位の考え方

- ① 老朽化が進んでいる施設については、老朽度や利用・コストの状況を総合的に勘案しながら、廃止または年次的な改修などを検討します。
- ② 集約・複合化の可能性のある施設については、対象施設の個々の老朽度や利用・コストの状況を総合的に勘案しながら検討します。

第3章 学校施設の目指すべき姿

本市の学校施設は、経過年数が30年を超えるものが多く、実際に一部の学校施設においては屋上、外壁、内壁等においてコンクリート等のひび割れや剥離等が進行しており、施設・設備の老朽化が進んでいます。老朽化が進む学校施設を抱える一方で、市の厳しい財政状況から、高まる改築需要の抑制を図る必要があります。

また、学校施設整備には、「学校施設整備基本構想の在り方について（平成25（2013）年3月学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議）」において、安全性、快適性、学習活動への適応性、環境への適応性、地域の拠点化等に配慮した整備が必要とされており、施設の長寿命化だけでなく、多様な学習内容や形態に対応した高機能かつ多機能な環境整備が求められています。

① 安全性

学校施設は、子どもたちの学校生活が安全・安心に過ごせる教育環境を整備するとともに、災害時には地域住民の避難所となることから、耐震性を備えるとともに、大規模な地震による津波や水害、がけ崩れ等にも対応できる施設として整備していく必要があります。

施設の耐震化率は、令和3（2021）年度に100%となりますが、今後は非構造部材の落下を防止するための耐震化対策にも取り組み、災害時の避難所としての機能を確保する必要があります。

② 快適性

本市の学校施設は、普通教室にエアコンを整備しましたが、一部の特別教室は未整備となっています。また、バリアフリーに配慮したエレベーターやスロープの設置、トイレの整備等、将来の子どもたちが快適に過ごせる環境の整備を検討していく必要があります。

特にトイレについては、内装材や配管設備が劣化している学校が多く、衛生面で課題となっていることから全面的な改修が求められています。

③ 学習活動の適応性

確かな学力の定着を目指し習熟度別学習や少人数指導等、多様な学習内容・学習形態による活動が可能となる空間や、教育の情報化に対応したICT環境の整備が重要となっています。

また、今後の児童生徒数の減少に伴い学級数が減少した場合でも、空き教室を有効に活用できるような可変的な構造や、発達障害等子どもの特性に配慮した施設設計など、将来を見据えた効率的で効果的な施設整備を行っていく必要があります。

④ 環境への適応性

高効率な空調設備や照明の設置、自然採光や自然エネルギーの活用など、環境負荷の低減を図ることが可能な施設整備が求められています。

⑤ 地域の拠点地

地域に開かれた学校とするため、保護者や地域住民が訪れやすい環境とし、特に屋内運動場は学校開放事業でも地域住民の利用率が高いことから、放課後や夜間の安全な利用を考慮した施設整備を行う必要があります。

第4章 学校施設の状況

1 学校施設一覧

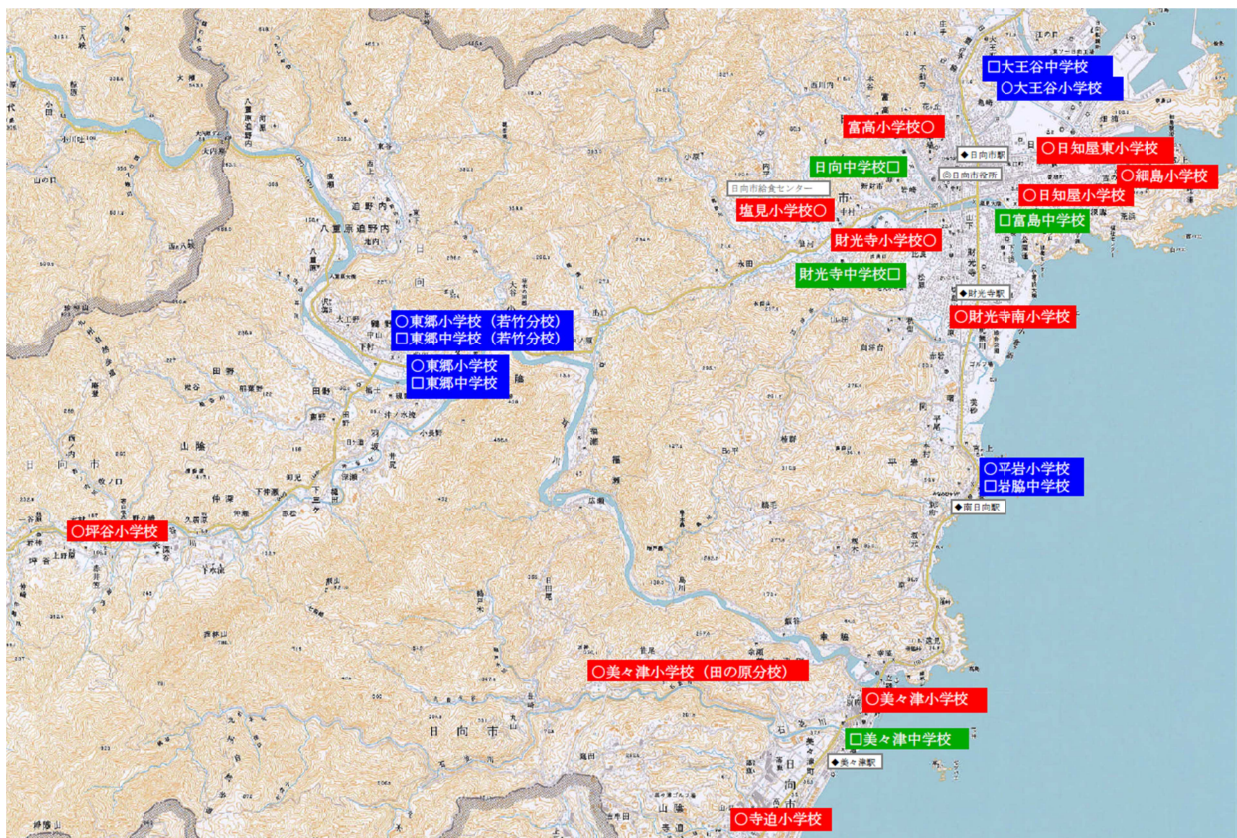
対象とする学校施設は、下記の小学校14校と中学校7校とします。

小学校	中学校
・ 富高小学校 ・ 日知屋小学校 ・ 財光寺小学校 ・ 細島小学校 ・ 塩見小学校 ・ 平岩小学校 ・ 美々津小学校 ・ 田の原分校（休校中） ・ 大王谷小学校 ・ 日知屋東小学校 ・ 財光寺南小学校 ・ 東郷小学校 ・ 坪谷小学校 ・ 寺迫小学校	- 富島中学校 - 岩脇中学校 - 美々津中学校 - 日向中学校 - 財光寺中学校 - 大王谷中学校 - 東郷中学校

※東郷小学校若竹分校、東郷中学校若竹分校は民間施設内のため対象外
 ※倉庫、部室、便所等の用途で200㎡以下の小規模な建物は対象外

2 学校施設の配置状況

図3 小中学校の位置図

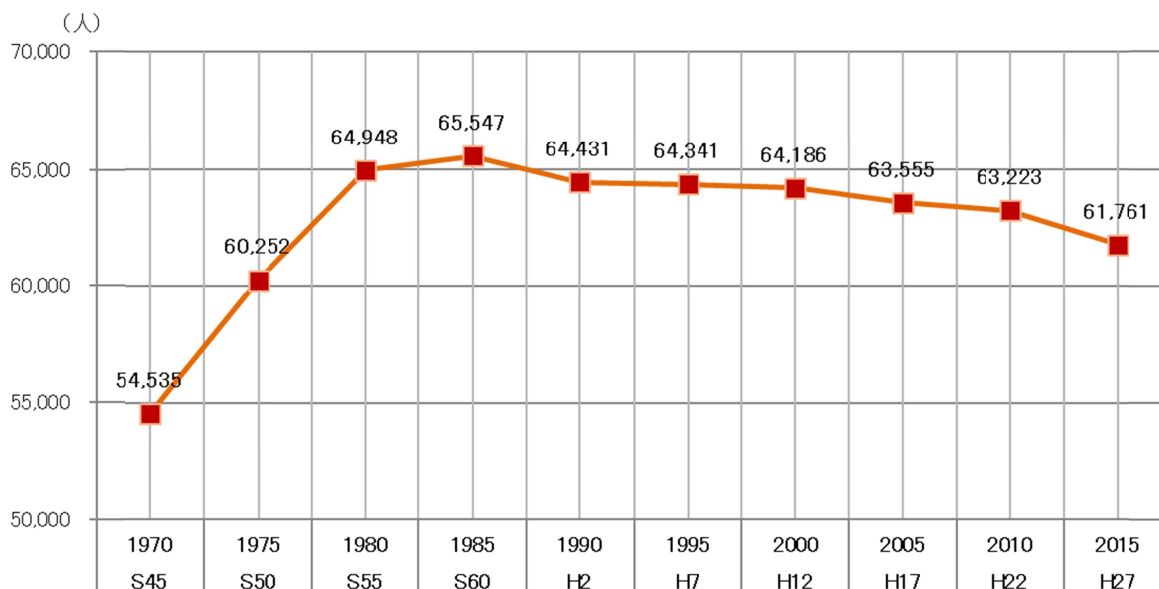


3 人口の推移と将来推計

図4は、本市の総人口の推移を表したものです。昭和50(1975)年代前半までは急増していますが、その後は緩やかな減少傾向が続いてきました。しかし、平成22(2010)年からは死亡数が出生数を上回ったことで人口減少が加速しています。

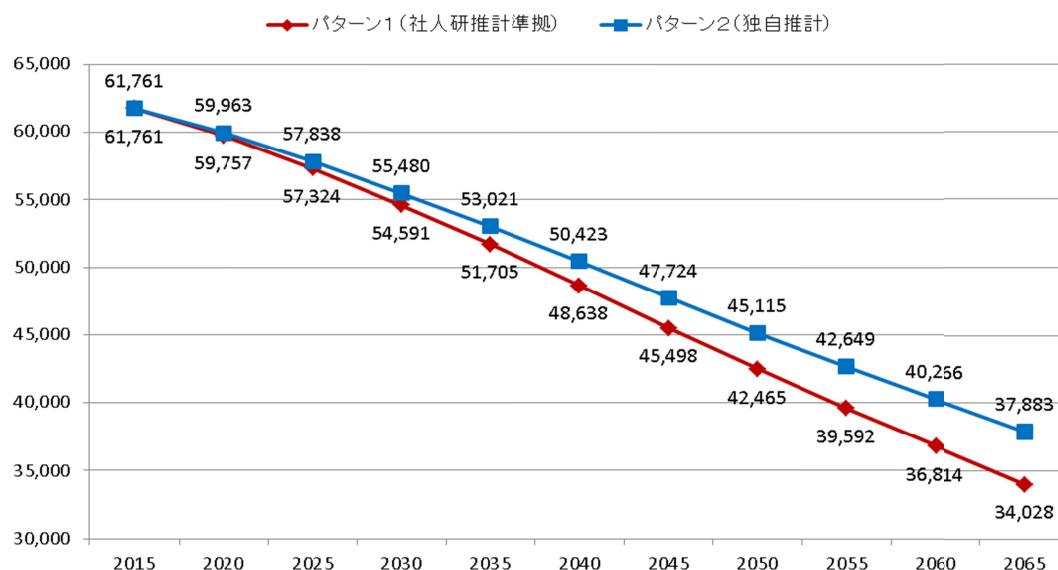
図5は、本市の将来人口推計を表したものです。国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)の推計では、令和27(2045)年の人口は、45,498人に減少すると予測されています。

図4 総人口の推移



資料：日向市人口ビジョン

図5 市の将来人口推計



資料：日向市人口ビジョン

4 児童生徒数の推移と学級数の推移

① 児童生徒数の推移

本市の児童生徒数は人口減少や少子高齢化の影響で、令和2（2020）年度の児童数は3,413人、生徒数は1,677人の合計5,090人となっており、ピーク時の昭和60（1986）年度と比較して4,566人減少しています。

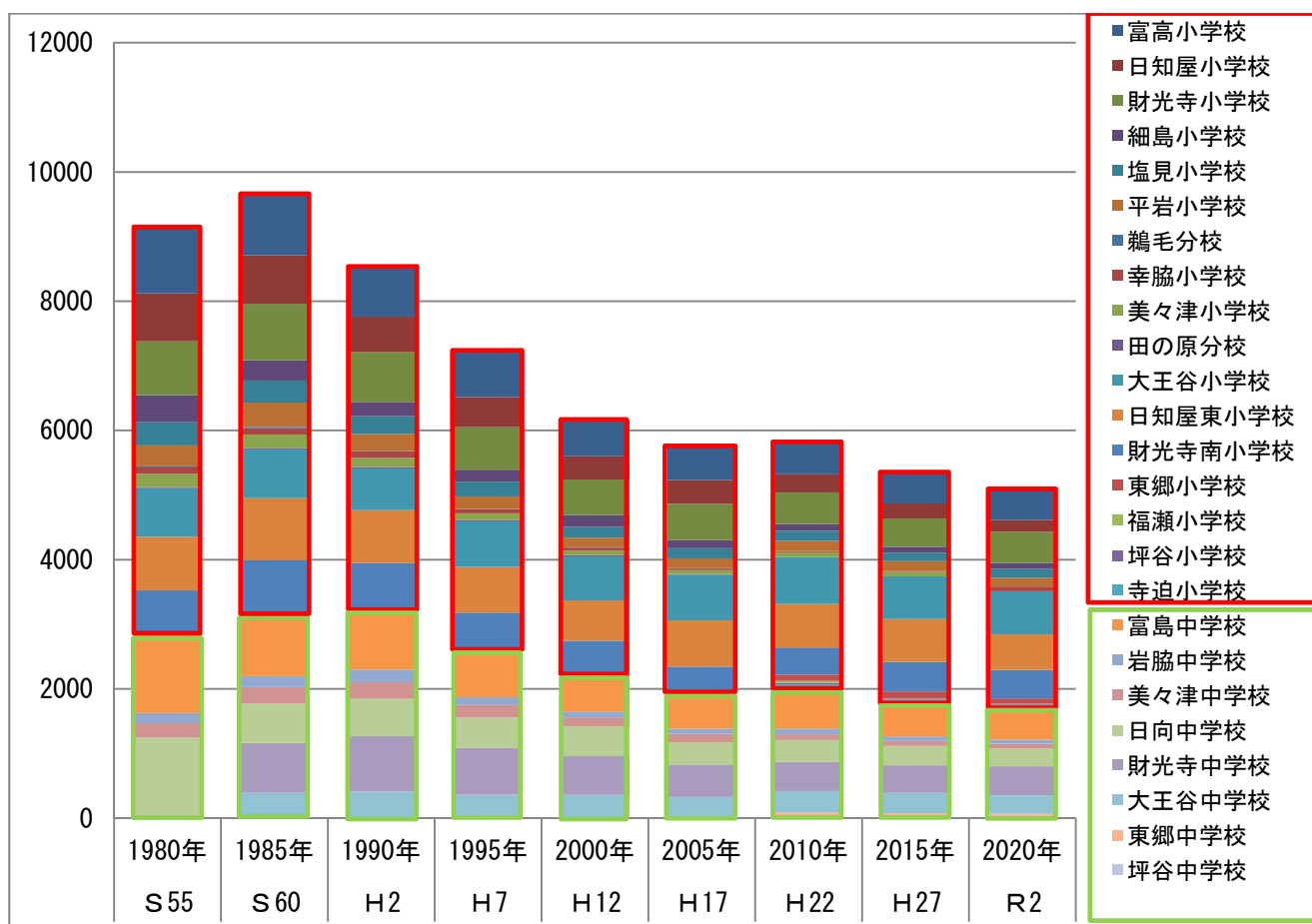
児童生徒数の減少に伴い、平成18（2006）年4月1日に平岩小学校鵜毛分校、平成21（2009）年4月1日に越表小学校、平成23（2011）年4月1日に福瀬小学校・坪谷中学校、平成28（2016）年4月1日に幸脇小学校をそれぞれ統廃合しています。

<児童生徒数>

(人)

	これまでの推移								
	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
小学校 児童数	6,301	6,524	5,361	4,672	3,913	3,871	3,818	3,575	3,413
中学校 生徒数	2,840	3,132	3,200	2,568	2,251	1,917	1,993	1,760	1,677
合計	9,141	9,656	8,561	7,240	6,164	5,788	5,811	5,335	5,090

図6 児童生徒数の推移



資料：日向市教育委員会（各年5月1日現在）

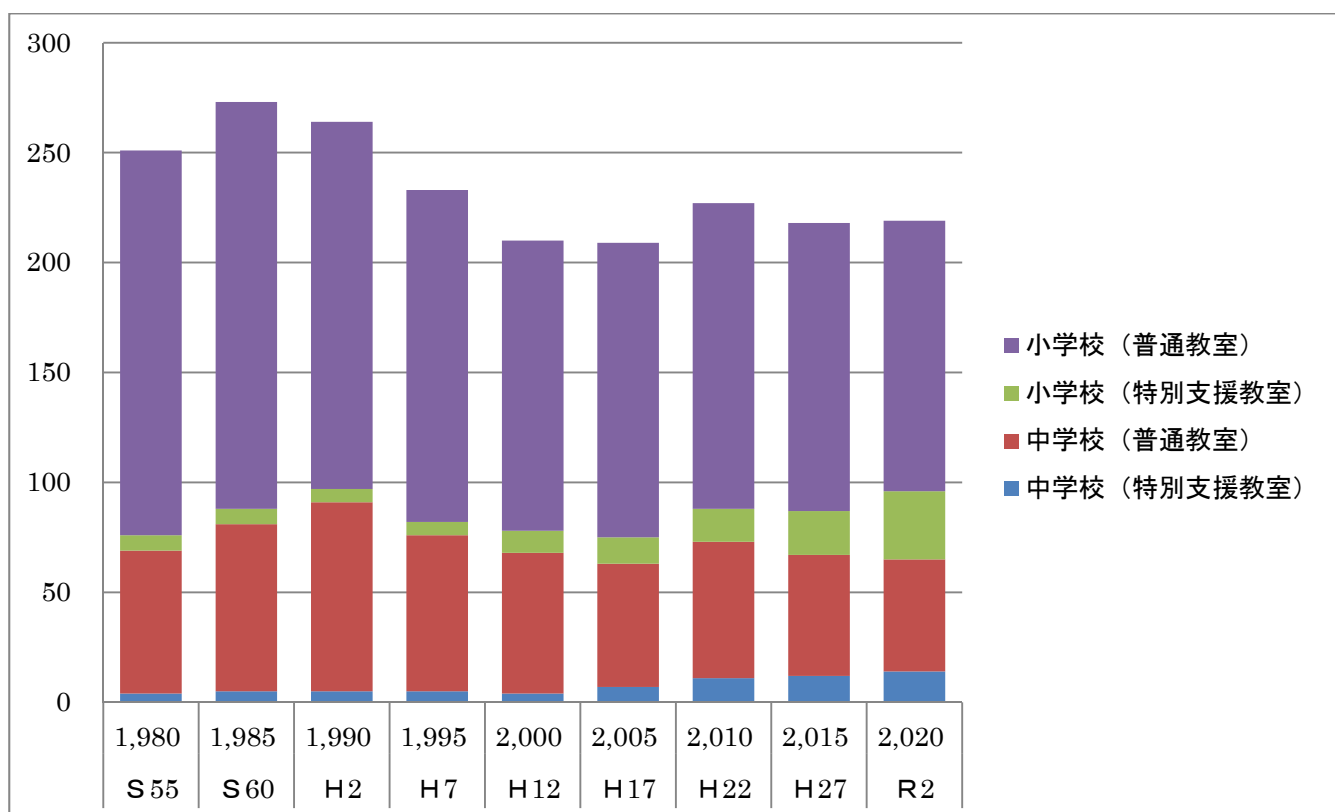
② 学級数の推移

本市の学級数は昭和 60（1986）年度をピークに小学校、中学校とも通常の学級数は減少していますが、平成 12（2000）年度以降、特別支援学級が増加していることから、小学校では増加傾向となっており、中学校ではほぼ横ばいとなっています。

<学級数>

	これまでの推移								
	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
	S 55	S 60	H 2	H 7	H 12	H 17	H 22	H 27	R 2
小学校 （普通教室）	175	185	167	151	132	134	139	131	123
小学校 （特別支援教室）	7	7	6	6	10	12	15	20	31
小学校合計	182	192	173	157	142	146	154	151	154
中学校 （普通教室）	65	76	86	71	64	56	62	55	51
中学校 （特別支援教室）	4	5	5	5	4	7	11	12	14
中学校合計	69	81	91	76	68	63	73	67	65

図 7 学級数の推移



資料：日向市教育委員会（各年 5 月 1 日現在）

5 小学校区別人口推計

次に、社人研の将来推計に基づく各小学校区別の将来人口推計を示します。

市内の小学校区のうち、減少率が最も高いのは坪谷小学校区で57.12%、次いで東郷小学校区（47.95%）、美々津小学校区（47.21%）と続きます。

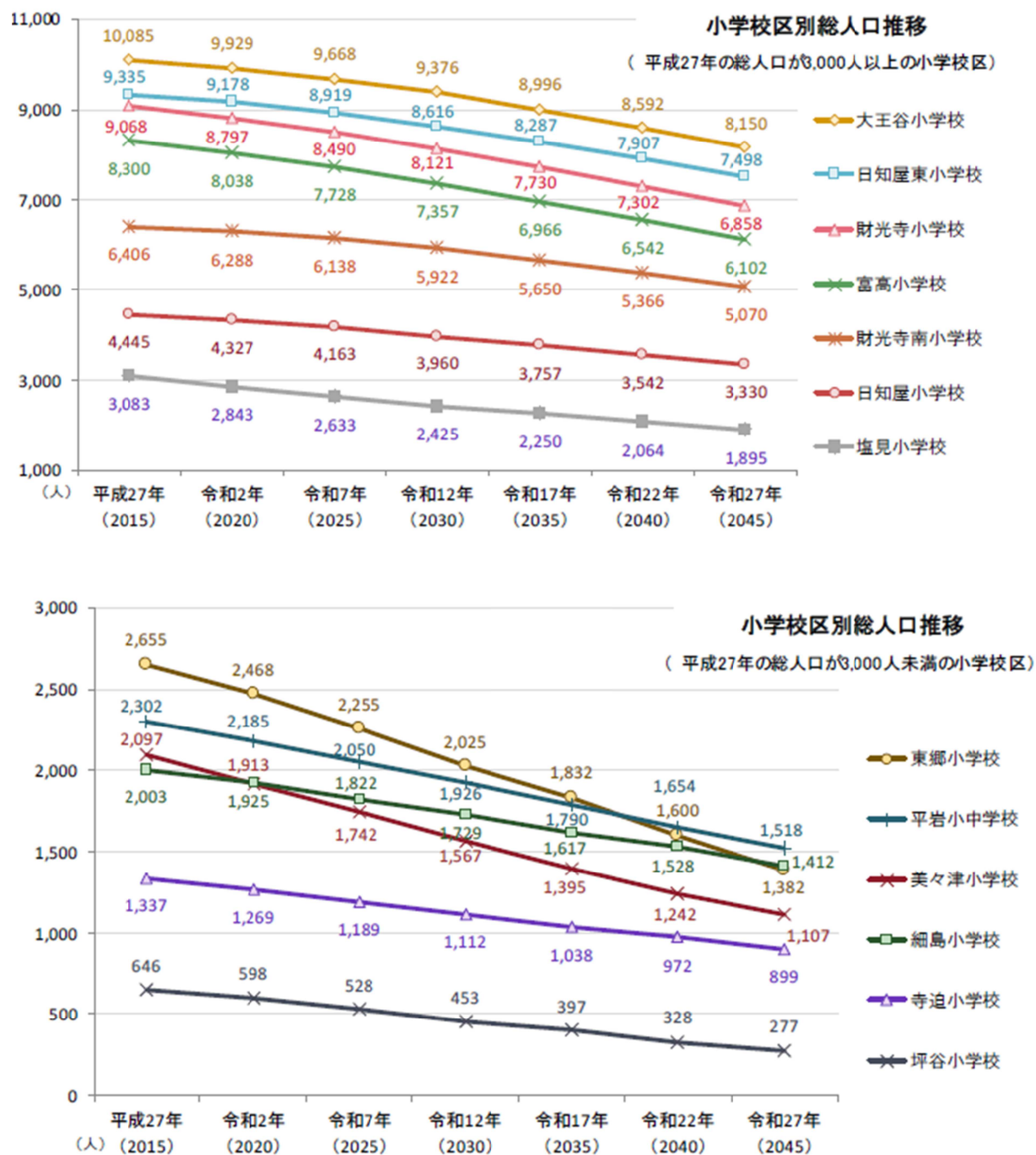
図8に示した校区別の人口減少割合を比較すると、2045年に2015年の人口の7割以下となるのは、寺迫、平岩、塩見、美々津、東郷、坪谷の各小学校区であり、郊外部の小学校区の人口が大きく減少することが分かります。

また、図9に示した校区別人口密度の推移をみると、中山間地域だけでなく市街地でも人口減少が進むことが予測されています。

総人口	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	減少率 2045/2015
富高小学校	8,300	8,038	7,728	7,357	6,966	6,542	6,102	26.48%
日知屋小学校	4,445	4,327	4,163	3,960	3,757	3,542	3,330	25.08%
財光寺小学校	9,068	8,797	8,490	8,121	7,730	7,302	6,858	24.37%
細島小学校	2,003	1,925	1,822	1,729	1,617	1,528	1,412	29.51%
塩見小学校	3,083	2,843	2,633	2,425	2,250	2,064	1,895	38.53%
平岩小中学校	2,302	2,185	2,050	1,926	1,790	1,654	1,518	34.06%
美々津小学校	2,097	1,913	1,742	1,567	1,395	1,242	1,107	47.21%
大王谷小学校	10,085	9,929	9,668	9,376	8,996	8,592	8,150	19.19%
日知屋東小学校	9,335	9,178	8,919	8,616	8,287	7,907	7,498	19.68%
財光寺南小学校	6,406	6,288	6,138	5,922	5,650	5,366	5,070	20.86%
東郷小学校	2,655	2,468	2,255	2,025	1,832	1,600	1,382	47.95%
坪谷小学校	646	598	528	453	397	328	277	57.12%
寺迫小学校	1,337	1,269	1,189	1,112	1,038	972	899	32.76%
合計	61,761	59,759	57,324	54,590	51,704	48,639	45,498	26.33%

資料：日向市人口ビジョン

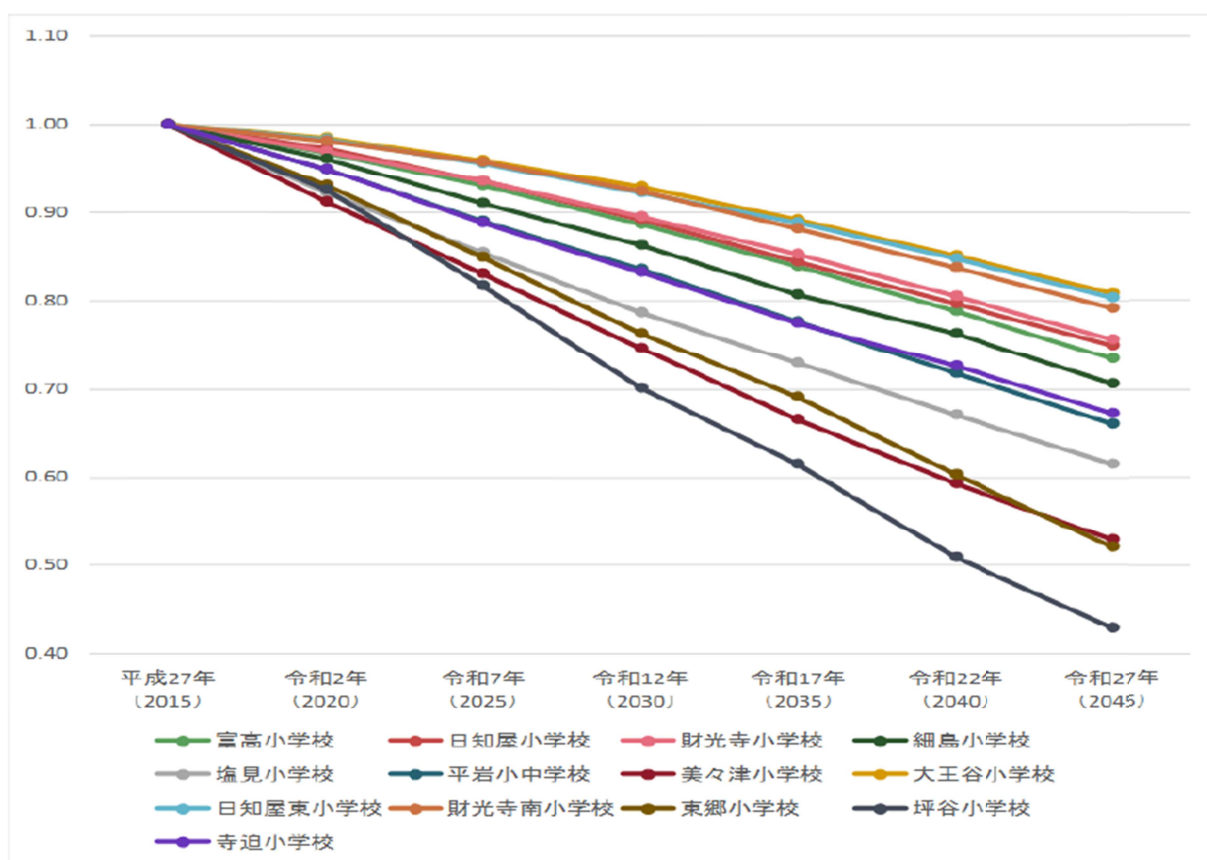
図8 小学校区別将来人口推移



資料：日向市人口ビジョン

	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)
大王谷小学校	1.00	0.98	0.96	0.93	0.89	0.85	0.81
日知屋東小学校	1.00	0.98	0.96	0.92	0.89	0.85	0.80
財光寺南小学校	1.00	0.98	0.96	0.92	0.88	0.84	0.79
財光寺小学校	1.00	0.97	0.94	0.90	0.85	0.81	0.76
日知屋小学校	1.00	0.97	0.94	0.89	0.85	0.80	0.75
富高小学校	1.00	0.97	0.93	0.89	0.84	0.79	0.74
細島小学校	1.00	0.96	0.91	0.86	0.81	0.76	0.71
寺迫小学校	1.00	0.95	0.89	0.83	0.78	0.73	0.67
平岩小中学校	1.00	0.95	0.89	0.84	0.78	0.72	0.66
塩見小学校	1.00	0.92	0.85	0.79	0.73	0.67	0.61
美々津小学校	1.00	0.91	0.83	0.75	0.67	0.59	0.53
東郷小学校	1.00	0.93	0.85	0.76	0.69	0.60	0.52
坪谷小学校	1.00	0.93	0.82	0.70	0.62	0.51	0.43

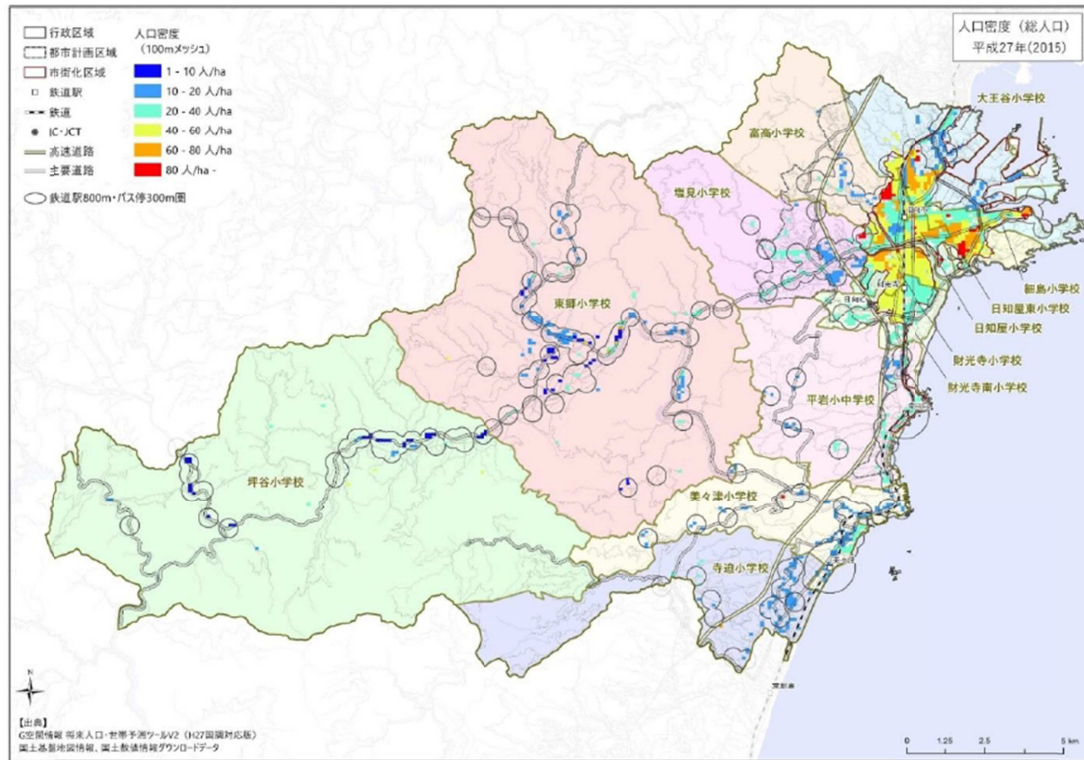
図9 校区別の人口減少割合



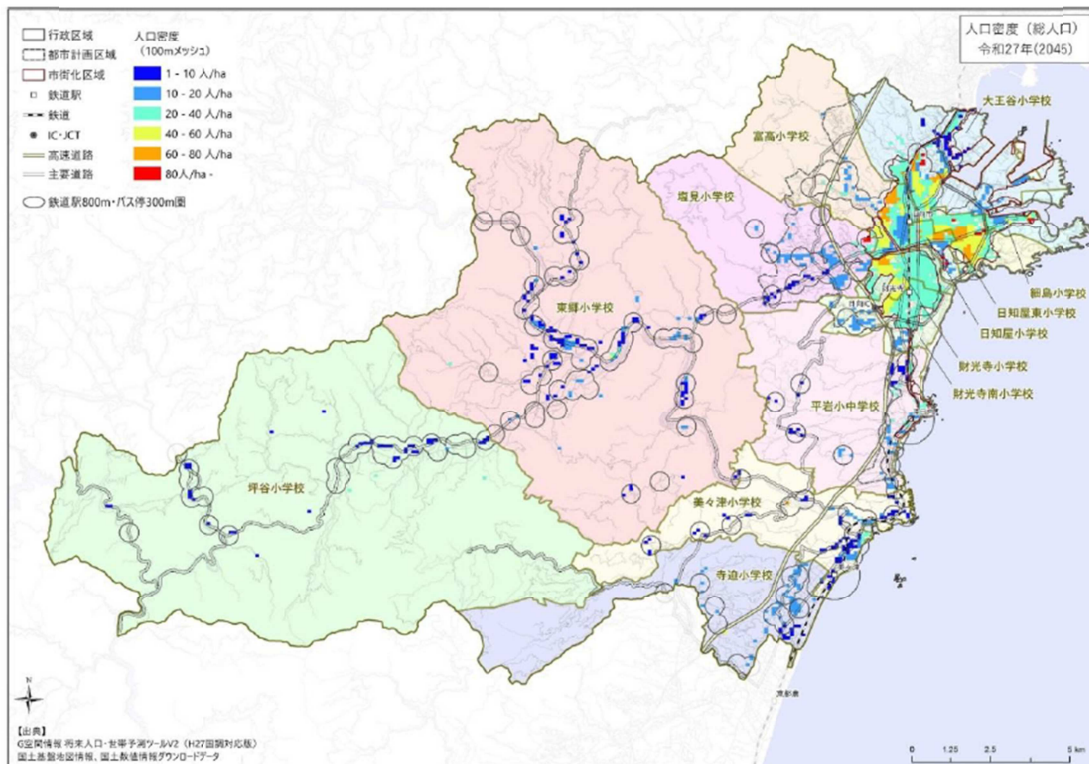
資料：日向市人口ビジョン

図 10 校区別人口密度の推移

■小学校区と 2015 年の人口密度



■小学校区と 2045 年の人口密度



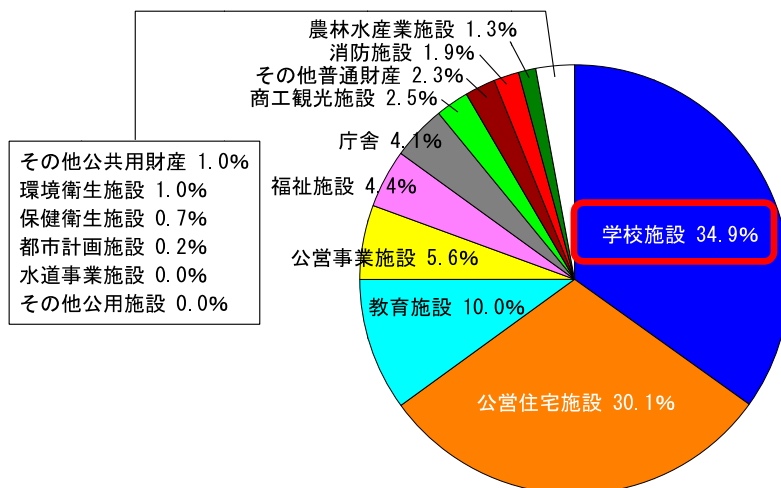
資料：日向市人口ビジョン

6 学校施設の保有量

公共施設の用途別の保有状況を表したものです。

延床面積の割合をみると、小学校・中学校などの学校施設が全体の約 35%を占めています。

図 11 公共施設の用途別の保有状況

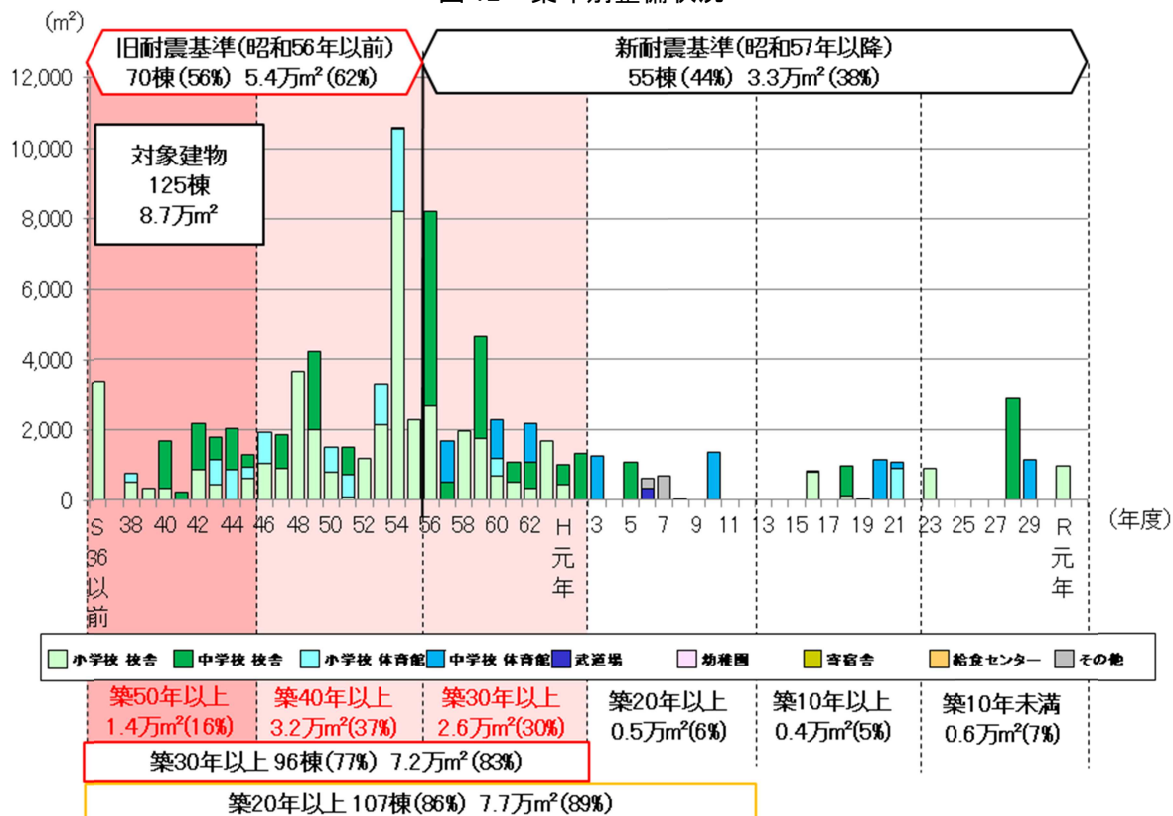


資料：日向市公共施設等総合管理計画

本計画の対象となる小中学校は築 30 年以上の建物が 83% (7.2 万㎡) となっており、老朽化が進んでいます。今後児童生徒数が減少していく中で、改築や大規模な改修が必要となる建物が増加し多額の経費が掛かり、本市の財政に大きな影響を与えることになります。

そのため、学校施設は改築だけではなく、長寿命化改修や大規模改修による整備を検討していく必要があります。

図 12 築年別整備状況



7 施設関連経費の推移

直近5か年の施設整備としては、平成27（2015）年度から平成28（2016）年度にかけて耐震基準を満たしていない日向中学校の改築事業を実施し、校舎・屋内運動場・技術室棟の改築を行いました。

平成30（2018）年度には耐震基準を満たしていない富高小学校校舎の改築を実施しています。

令和元（2019）年度には、熱中症対策として各学校の普通教室へ空調設備を整備しています。

〈直近5か年の施設関連経費合計〉

（単位：千円）

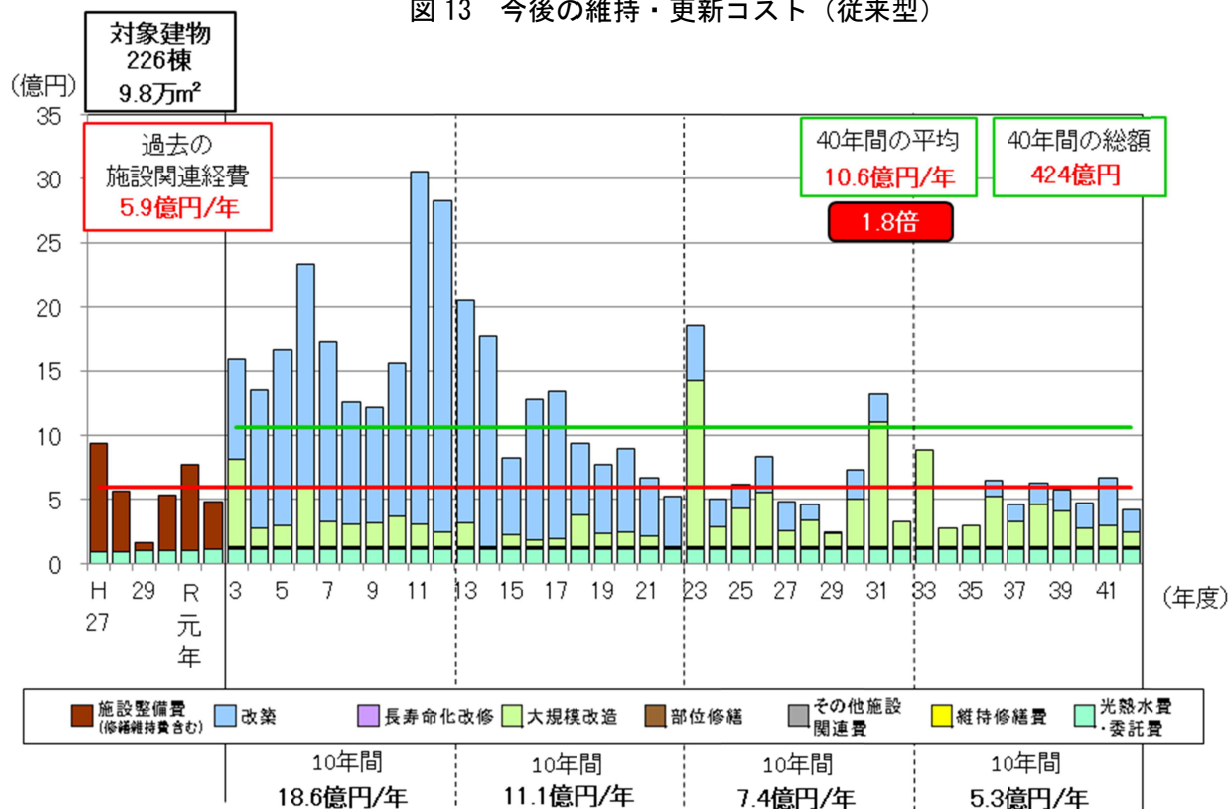
	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	5か年平均
施設整備費	820,250	448,114	37,447	414,969	650,879	474,332
施設維持工事費	12,462	12,700	12,625	11,715	12,561	12,413
維持修繕費	8,462	8,136	8,199	7,868	8,018	8,137
光熱水費・委託料	93,945	95,977	102,481	101,976	105,468	99,969
施設関連費合計	935,119	564,927	160,752	536,528	776,926	594,850

8 今後の維持・更新コスト（従来型）

建築後約50年を目途に改築を行う方法を継続した場合、今後40年間での整備コスト総額は424億円（10.6億円/年平均）と試算されます。

今後、児童生徒数が減少していく中、従来の改築を基本とする整備では学校施設を維持していくことが不可能な状況にあります。

図13 今後の維持・更新コスト（従来型）



※長寿命化改修、大規模改造の単価は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（平成29年3月 文部科学省）付属のエクセルソフトを参考に、改築費に対する割合で設定しています。

そのため実際の単価とは異なります。実際の単価は、過去の工事や社会情勢を考慮し、検討を行います。

第5章 学校施設の実態調査

1 調査の実施方法

学校施設の実態調査については、各建物の定期点検や日常的な点検結果より劣化状況調査票を作成し、劣化状況を把握します。具体的な調査の内容は、建物ごとの屋根・屋上、外壁、内部仕上、電気設備、機械設備の5つの部位について劣化状況調査を行い、屋根・屋上、外壁については、目視調査により雨漏りの状況や、ひび割れなどの状況を調査し、内部仕上、電気設備、機械設備については、目視調査に加え、過去に行った工事などの実施年度から経過年数を調査します。

通し番号					
学校名			学校番号		
建物名			調査日		
棟番号			記入者		
構造種別			建築年度	年度(年度)	
	延床面積	m ²	階数	地上	階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	☐ アスファルト保護防水			☐ 降雨時に雨漏りがある			
	☐ アスファルト露出防水			☐ 天井等に雨漏り痕がある			
	☐ シート防水、塗膜防水			☐ 防水層に膨れ・破れ等がある			
	☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板)			☐ 屋根葺材に錆・損傷がある			
	☐ 勾配屋根(スレート、瓦類)			☐ 笠木・立上り等に損傷がある			
	☐ その他の屋根()			☐ 樋やルーフトレンを目視点検できない			
2 外壁	☐ 塗仕上げ			☐ 鉄筋が見えているところがある			
	☐ タイル張り、石張り			☐ 外壁から漏水がある			
	☐ 金属系パネル			☐ 塗装の剥がれ			
	☐ コンクリート系パネル(ALC等)			☐ タイルや石が剥がれている			
	☐ その他の外壁()			☐ 大きな亀裂がある			
	☐ アルミ製サッシ			☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	☐ 鋼製サッシ			☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	☐ 断熱サッシ、省エネガラス			☐ 外部手すり等の錆・腐朽			
				☐ 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	☐ 老朽改修			
	☐ エコ改修			
	☐ トイレ改修			
	☐ 法令適合			
	☐ 校内LAN			
	☐ 空調設置			
	☐ 障害児等対策			
	☐ 防犯対策			
	☐ 構造体の耐震対策			
	☐ 非構造部材の耐震対策			
4 電気設備	☐ 分電盤改修			
	☐ 配線等の敷設工事			
	☐ 昇降設備保守点検			
	☐ その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	☐ 給水配管改修			
	☐ 排水配管改修			
	☐ 消防設備の点検			
	☐ その他、機械設備改修工事			

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項があれば、該当部位と指摘内容を記載)

	健全度
	0 / 100点

劣化状況の評価については、屋根・屋上、外壁は、改修後10年以内のものや汚れている程度のものでありおおむね良好なものをA、部分的なひび割れや雨水排水不良などの劣化があるものをB、広範囲にひび割れ、雨水排水不良などの劣化や内部に小規模な雨漏り痕があるものをC、広範囲に幅広いひび割れや内部に複数の雨漏り痕があり、早急に対応する必要があるものをDとして、4段階による評価を行いました。内部仕上、電気設備、機械設備は、経過年数が20年未満のものをA、20年以上40年未満のものをB、40年以上のものをC、経過年数に関わらず著しい劣化の事象がある場合をDとして4段階による評価を行いました。

4段階評価を行った上で、Aを100点、Bを75点、Cを40点、Dを10点とし、100点満点で数値化した健全度という評価指標を算定します。健全度は数値が小さいほど劣化が進んでいることを示しています。

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】		経過年数による評価【内部仕上、電気設備、機械設備】	
評価	基準	評価	基準
良好 A	概ね良好	良好 A	20年未満
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)	B	20～40年
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)	C	40年以上
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等	劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

健全度の算定

部位の評価点		部位のコスト配分	
評価	評価点	部位	コスト配分
A	100	屋根・屋上	5.1
B	75	外壁	17.2
C	40	内部仕上	22.4
D	10	電気設備	8.0
		機械設備	7.3
		合計	60

健全度
健全度＝総和(部位の評価点×コスト配分)÷60
※100点満点にするためにコスト配分の合計で割っています。

2 健全度の判定結果

建物基本情報																				構造躯体の健全性										劣化状況評価					備考
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定 資産 台帳 番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年		耐震安全性			長寿命化判定		屋根 上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点満点)												
						学校種 別	建物用 途				西暦	和暦	基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)							試算上 の区分											
1	1601	富高小学校		17		小学校	体育館	S	2	872	1967	S42	53	旧	済	-	H17	-	要調査	B	C	B	B	B	65	大規模改修H2									
2	1601	富高小学校		26		小学校	校舎	RC	3	1957	1983	S58	37	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75											
3	1601	富高小学校		32		小学校	校舎	RC	3	1531	1984	S59	36	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75											
4	1601	富高小学校		33		小学校	校舎	RC	1	108	1984	S59	36	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75											
6	1601	富高小学校		35		小学校	校舎	RC	1	123	1984	S59	36	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75											
7	1601	富高小学校		38		小学校	校舎	W	2	990	2019	R元	1	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100											
8	1602	日知屋小学校		1-1		小学校	校舎	RC	2	499	1963	S38	57	旧	済	-	H15	16.4	長寿命	B	C	B	B	B	65	大規模改修H5									
9	1602	日知屋小学校		1-2		小学校	校舎	RC	2	348	1965	S40	55	旧	済	-	H15	16.4	長寿命	B	C	B	B	B	65	大規模改修H5									
10	1602	日知屋小学校		2		小学校	校舎	RC	2	474	1971	S46	49	旧	済	済	H15	38.4	長寿命	B	C	B	B	B	65	大規模改修H5									
11	1602	日知屋小学校		16		小学校	体育館	S	2	872	1969	S44	51	旧	済	-	H15	31.9	長寿命	B	B	B	B	B	75	大規模改修H6									
12	1602	日知屋小学校		25		小学校	校舎	RC	3	796	1975	S50	45	旧	済	-	H11	25.8	長寿命	C	D	C	C	C	31										
13	1602	日知屋小学校		31		小学校	校舎	RC	3	2222	1979	S54	41	旧	済	済	H15	32.3	長寿命	C	D	C	C	C	31										
17	1603	財光寺小学校		1-1		小学校	校舎	RC	3	627	1958	S33	62	旧	済	-	H15	19.8	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H6									
18	1603	財光寺小学校		1-2		小学校	校舎	RC	2	350	1964	S39	56	旧	済	-	H15	19.8	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H6									
19	1603	財光寺小学校		1-3		小学校	校舎	RC	2	447	1968	S43	52	旧	済	-	H15	19.8	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H6									
20	1603	財光寺小学校		15		小学校	校舎	RC	2	602	1970	S45	50	旧	済	-	H15	33.4	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H6									
21	1603	財光寺小学校		16		小学校	体育館	S	2	878	1971	S46	49	旧	済	-	H15	-	要調査	B	C	B	B	B	65	大規模改修H7									
22	1603	財光寺小学校		18		小学校	校舎	RC	2	575	1972	S47	48	旧	済	-	H11	27.4	長寿命	B	B	A	A	A	91	大規模改修H17									
23	1603	財光寺小学校		22		小学校	校舎	RC	3	1032	1977	S52	43	旧	済	-	H15	27.4	長寿命	D	C	C	C	C	37										
24	1603	財光寺小学校		23		小学校	校舎	RC	2	70	1977	S52	43	旧	済	-	H11	25	長寿命	B	B	A	A	A	91	大規模改修H17									
25	1603	財光寺小学校		24		小学校	校舎	RC	2	70	1977	S52	43	旧	済	-	H11	26	長寿命	B	B	A	A	A	91	大規模改修H17									
27	1603	財光寺小学校		31		小学校	校舎	RC	3	454	1989	H元	31	新	-	-	-	長寿命	D	C	C	B	B	46											
31	1604	細島小学校		1-1		小学校	校舎	RC	2	892	1958	S33	62	旧	済	-	H18	19.6	改築	D	D	C	C	C	29	大規模改修S62									
32	1604	細島小学校		1-2		小学校	校舎	RC	2	1028	1956	S31	64	旧	済	-	H18	26.1	改築	D	D	C	C	C	29	大規模改修S62									
33	1604	細島小学校		1-3		小学校	校舎	RC	2	802	1957	S32	63	旧	済	-	H18	14.3	改築	D	D	C	C	C	29	大規模改修S62									
35	1604	細島小学校		11		小学校	体育館	S	2	709	1968	S43	52	旧	済	済	H18	-	要調査	C	C	B	B	B	62	大規模改修S62									
40	1605	塩見小学校		1		小学校	校舎	RC	3	1303	1973	S48	47	旧	済	済	H12	22.8	長寿命	B	B	A	A	A	91	大規模改修H13									
41	1605	塩見小学校		2		小学校	校舎	RC	2	967	1974	S49	46	旧	済	-	H13	30.9	長寿命	B	B	A	A	A	91	大規模改修H14									
42	1605	塩見小学校		6-1		小学校	体育館	S	2	670	1976	S51	44	旧	済	済	H15	-	要調査	B	B	A	A	A	91	大規模改修H16									
43	1605	塩見小学校		6-2		小学校	体育館	S	1	27	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91										
45	1605	塩見小学校		10		小学校	校舎	RC	2	336	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91	大規模改修H13									
51	1606	平岩小学校		11-1		小学校	校舎	RC	2	573	1971	S46	49	旧	済	済	H7	25.1	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H9									
52	1606	平岩小学校		11-2		小学校	校舎	RC	2	334	1972	S47	48	旧	済	済	H7	25.1	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H9									
53	1606	平岩小学校		14		小学校	校舎	RC	2	1033	1974	S49	46	旧	済	-	H11	25.8	長寿命	C	B	B	B	B	72	大規模改修H12									
54	1606	平岩小学校		16		小学校	校舎	RC	2	73	1976	S51	44	旧	済	-	H7	25.1	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H9									
55	1606	平岩小学校		18		小学校	校舎	RC	2	682	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75										
60	1606	平岩小学校		23		小学校	体育館	W	1	894	2009	H21	11	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100										
61	1609	美々津小学校		12-1		小学校	体育館	S	2	670	1978	S53	42	旧	済	済	H17	26.2	長寿命	B	B	B	B	B	75	大規模改修H12									
62	1609	美々津小学校		12-2		小学校	体育館	S	1	27	2007	H19	13	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	A	A	A	98										
66	1609	美々津小学校		23		小学校	校舎	RC	2	1704	1988	S63	32	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72										
69	1610	美々津小学校 田の原分校		13		小学校	校舎	RC	1	503	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72										
74	1610	美々津小学校 田の原分校		19		小学校	校舎	W	2	620	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91										
75	1611	大王谷小学校		1-1		小学校	校舎	RC	3	1318	1973	S48	47	旧	済	済	H8	22.5	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H10									
76	1611	大王谷小学校		1-2		小学校	校舎	RC	3	503	1979	S54	41	旧	済	済	H8	22.5	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H10									
77	1611	大王谷小学校		2		小学校	校舎	RC	2	1007	1973	S48	47	旧	済	済	H10	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	大規模改修H11									
78	1611	大王谷小学校		6		小学校	体育館	S	2	714	1975	S50	45	旧	済	済	H8	-	要調査	C	B	B	B	B	72	大規模改修H8									
79	1611	大王谷小学校		13		小学校	校舎	RC	2	940	1981	S56	39	旧	済	-	H10	20.6	長寿命	C	C	D	D	D	62										
80	1611	大王谷小学校		14		小学校	校舎	RC	1	144	1981	S56	39	旧	-	-	-	-	要調査	C	B	B	B	B	72										
87	1613	日知屋東小学		1-1		小学校	校舎	RC	3	2159	1978	S53	42	旧	済	済	H20	25.7	長寿命	C	C	C	C	C	40										
88	1613	日知屋東小学		1-2		小学校	校舎	RC	3	590	1980	S55	40	旧	済	済	H20	25.7	長寿命	C	C	C	C	C	40										
90	1613	日知屋東小学		5		小学校	校舎	RC	3	1662	1979	S54	41	旧	済	-	H16	32.8	長寿命	C	C	C	C	C	40										
91	1613	日知屋東小学		6		小学校	体育館	S	2	1170	1979	S54	41	旧	済	-	H16	-	長寿命	C	C	C	C	C	40										
93	1613	日知屋東小学		9		小学校	校舎	S	1	29	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91										
94	1613	日知屋東小学		10		小学校	校舎	S	2	132	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91										
95	1613	日知屋東小学		11		小学校	校舎	S	1	132	2006	H18	14	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91										
96	1614	財光寺南小学		1		小学校	校舎	RC	3	1514	1979	S54	41	旧	済	済	H20	22.9	長寿命	C	D	C	C	C	31										
97	1614	財光寺南小学		2		小学校	校舎	RC	3	1026	1979	S54	41	旧	済	済	H20	27.9	長寿命	C	C	C	C	C	40										
98	1614	財光寺南小学		3		小学校	校舎	RC	3	1284	1979	S54	41	旧	済	済	H20	32.8	長寿命	C	C	C	C	C	40										
101	1614	財光寺南小学		8		小学校	体育館	S	2	1170	1979	S54	41	旧	済	-	H16	-	長寿命	C	C	C	C	C	40										
103	1614	財光寺南小学		12		小学校	校舎	RC	3	512	1986	S61	34	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B												

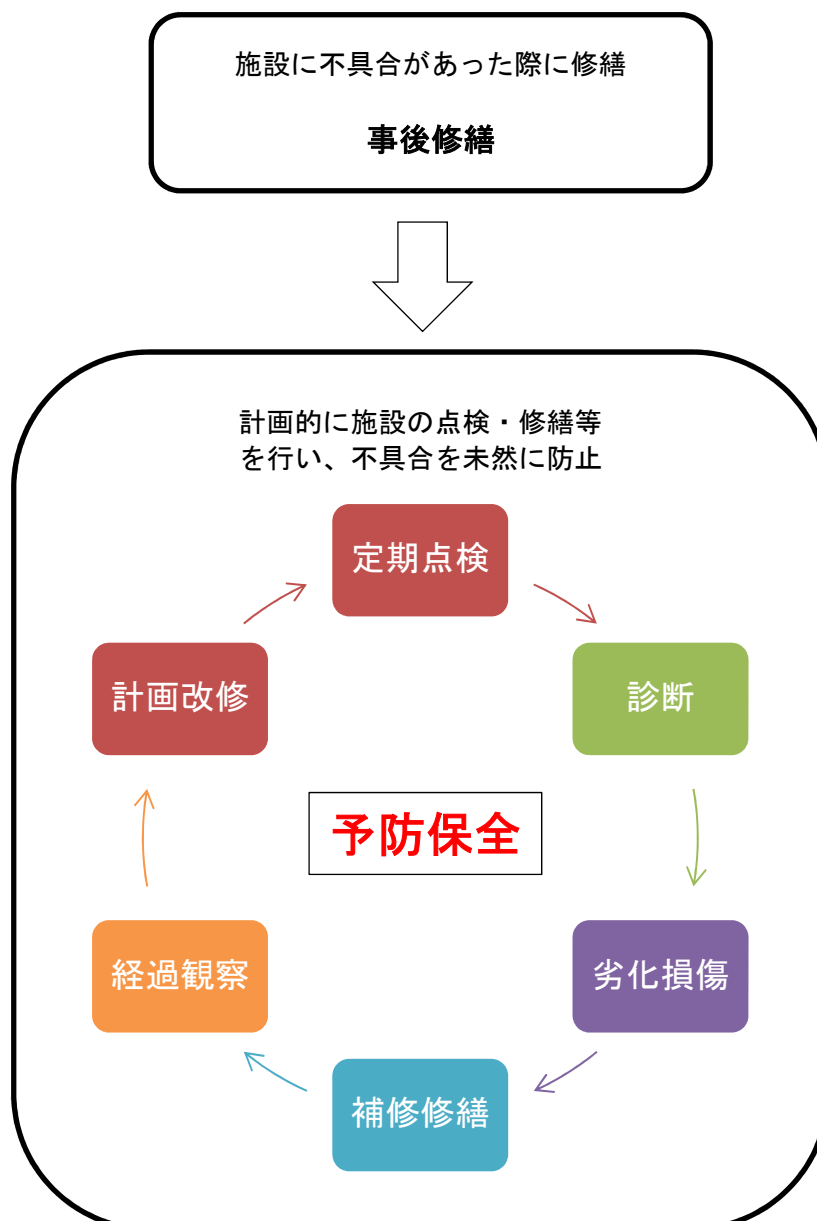
建物基本情報										構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考						
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定 資産 台帳 番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年		耐震安全性			長寿命化判定		屋根・ 屋上	外壁		内部仕 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点 満点)		
						学校 種別	建物 用途				西暦	和暦	基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)								試算上 の区分	
130	4601	富島中学校		1-1		中学校	校舎	RC	2	1144	1965	S40	55	旧	済	-	H17	22.5	長寿命	C	C	B	B	B	62	大規模改修H4
131	4601	富島中学校		1-2		中学校	校舎	RC	1	14	1979	S54	41	旧	済	-	H17	22.5	長寿命	C	C	C	C	C	40	
132	4601	富島中学校		1-3		中学校	校舎	RC	2	449	1981	S56	39	旧	済	-	H17	22.5	長寿命	C	C	B	B	B	62	
133	4601	富島中学校		17-1		中学校	校舎	RC	2	611	1967	S42	53	旧	済	-	H17	22.5	長寿命	B	B	B	B	B	75	大規模改修H3
134	4601	富島中学校		17-2		中学校	校舎	RC	2	631	1968	S43	52	旧	済	-	H17	22.5	長寿命	B	B	B	B	B	75	
135	4601	富島中学校		17-3		中学校	校舎	RC	2	361	1981	S56	39	旧	済	-	H17	22.5	長寿命	B	B	B	B	B	75	
136	4601	富島中学校		18		中学校	校舎	S	1	231	1966	S41	54	旧	済	-	H17	-	要調査	C	B	C	C	C	50	大規模改修H3
137	4601	富島中学校		20		中学校	校舎	RC	2	1159	1969	S44	51	旧	済	-	H17	22	長寿命	B	B	B	B	B	75	
140	4601	富島中学校		36		中学校	校舎	RC	2	679	1981	S56	39	旧	済	-	H17	26.2	長寿命	B	B	B	B	B	75	
145	4601	富島中学校		45		中学校	体育館	RC	2	1271	1991	H3	29	新	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72		
146	4601	富島中学校		46		中学校	校舎	RC	2	418	1993	H5	27	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75		
140	4602	岩臨中学校		14		中学校	校舎	RO	3	761	1976	S51	44	旧	済	-	H12	10.1	要調査	D	D	C	C	C	29	
149	4602	岩臨中学校		18		中学校	校舎	RC	3	431	1981	S56	39	旧	済	-	H12	18.1	要調査	D	D	B	B	B	51	
150	4602	岩臨中学校		21-1		中学校	体育館	RC	2	882	1987	S62	33	新	-	-	-	長寿命	D	C	B	B	B	59		
151	4602	岩臨中学校		21-2		中学校	体育館	RC	2	220	1987	S62	33	新	-	-	-	長寿命	D	C	B	B	B	59		
152	4602	岩臨中学校		22		中学校	校舎	RC	3	383	1990	H2	30	新	-	-	-	長寿命	D	D	B	B	B	51		
153	4602	岩臨中学校		23		中学校	校舎	RC	1	173	1990	H2	30	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75		
157	4602	岩臨中学校		27		中学校	校舎	W	2	675	2006	H18	14	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100		
158	4602	岩臨中学校		28		中学校	校舎	W	1	170	2006	H18	14	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100		
159	4602	岩臨中学校		29		中学校	体育館	W	1	200	2009	H21	11	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100		
160	4603	美々津中学校		16-1		中学校	校舎	RC	2	709	1967	S42	53	旧	済	済	H7	19.6	長寿命	B	B	B	B	B	75	大規模改修H8
161	4603	美々津中学校		16-2		中学校	校舎	RC	2	355	1970	S45	50	旧	済	済	H7	19.6	長寿命							

1 長寿命化の基本方針

施設をできる限り長く使うためには、適切な維持管理を行っていくことが重要です。そのため、従来のような劣化・破損等の大規模な不具合が生じた後に修繕等を行う「事後保全」型の管理から、計画的に施設の点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理へと転換を図ります。

「予防保全」を行うことにより、突発的な事故や費用発生を減少させることができ、施設の不具合による被害のリスクを緩和することや、改修・日常的な維持管理の費用を平準化し、中長期的なトータルコストを下げる事が可能となります。

図 14 予防保全のサイクル



2 目標耐用年数の設定

一般的に鉄筋コンクリート造の建物では、コンクリートのひび割れ・欠けや鉄筋の腐食等の劣化が生じた場合でも適切な時期（おおむね築後45年程度まで）に劣化原因を調査し、劣化の程度と原因に応じて適切な補修・改修を行うことで耐用年数を延ばすことができます。

鉄筋コンクリート造の校舎の場合、目標耐用年数として普通品質では50～80年、高品質の場合では80～120年とされています。

本計画においては「建築物の耐久計画に関する考え方」（社団法人日本建築学会）が提案する算定式や施設使用の限界年数の考え方と適切な維持管理が実施されることを前提に、学校施設の目標耐用年数を次のように設定します。

- ▼鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造に関しては、耐久性の高低における高品質（Y100）と普通品質（Y60）の間のおおむね中間値を採用し80年とします。
- ▼鉄骨造に関しては、上記と同様の考え方にに基づき80年とします。
- ▼木造に関しては、Y60の代表値である60年とします。

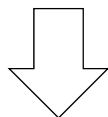
学校施設の目標耐用年数

鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄骨造	木造
80年	80年	60年

参考：建築物全体の望ましい目標耐用年数の級

構造種別 用途	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造			ブロック造 レンガ造	木造
	高品質の場合	普通の品質 の場合	重量鉄骨		軽量鉄骨		
			高品質の場合	普通の品質 の場合	軽量鉄骨		
学校・官庁	Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y40以上	Y60以上	Y60以上
住宅・事務所・病院	Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y40以上	Y60以上	Y40以上
店舗・旅館・ホテル	Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y40以上	Y60以上	Y40以上
工場	Y40以上	Y25以上	Y40以上	Y25以上	Y25以上	Y25以上	Y25以上

※表における「高品質」、「普通の品質」の区別は、耐久性の高低を示す
出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）



参考：目標耐用年数の級の区分の例

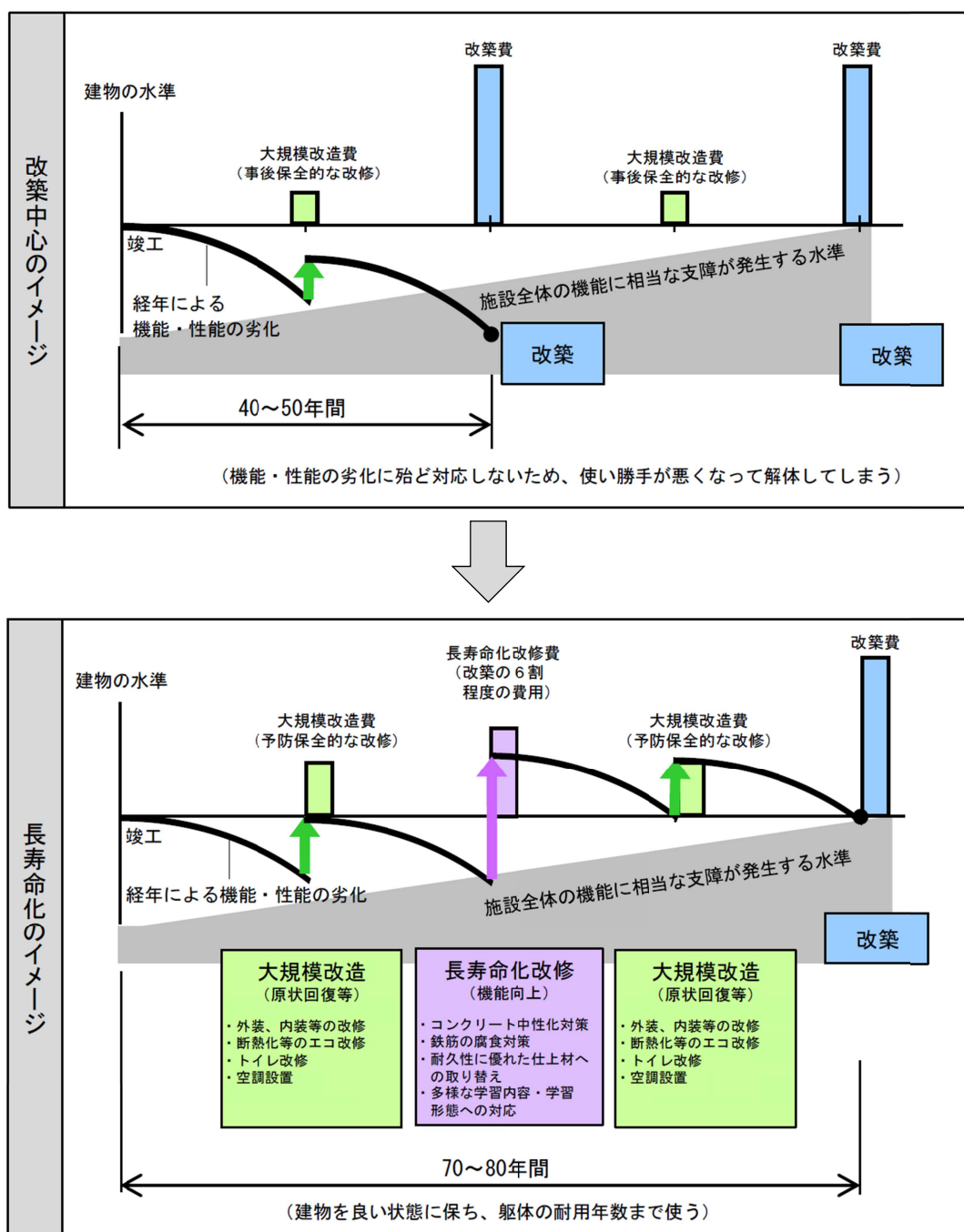
級	目標耐用年数		
	代表値	範囲	下限値
Y 150	150年	120年～200年	120年
Y 100	100年	80年～120年	80年
Y 60	60年	50年～80年	50年
Y 40	40年	30年～50年	30年
Y 25	25年	20年～30年	20年

出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）

3 修繕・改修周期の設定

建築物は、経年により劣化するとともに、耐震性能や省エネ性能等の社会的要求の高まりへの対応も求められます。そこで、25年周期で部位の更新時期に合わせた修繕を行うことを基本とします。加えて躯体の目標耐用年数の中間年で、新築時の整備水準を超える長寿命化改修を行うことで、建築物を使用している間、建築物に求められる性能が維持できる状態とします。

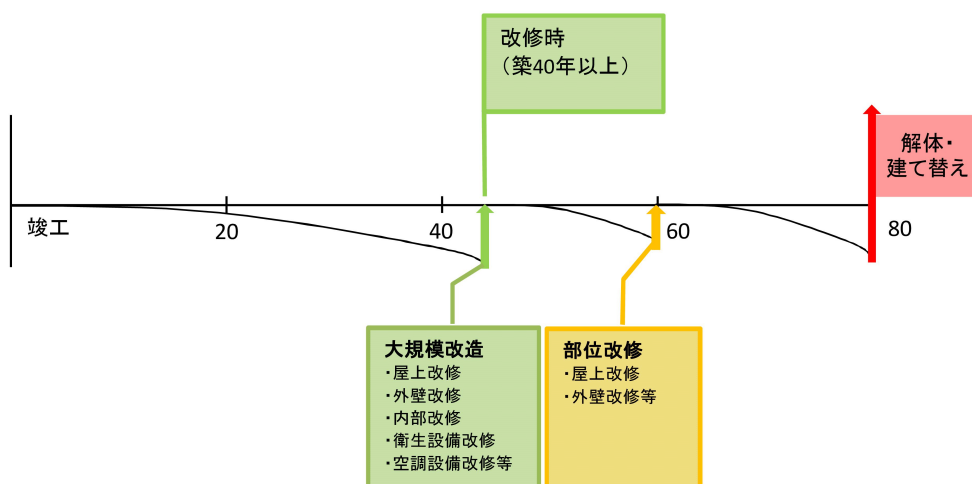
図 15 修繕・改修・建て替えの標準イメージ



なお、多くの施設が築30年以上経過しているため、今後10年間で対象施設の長寿命化改修を行いたいところですが、改修時に築40年以上経過している施設を一律に長寿命化改修（原状回復＋機能向上）する事は現実的に不可能であるとともに、かえって不経済になるケースもあります（目標耐用年数までの使用期間も短く、費用対効果も低い）。

そのため、改修時に築40年以上経過している古い施設については、計画的な「大規模改造・部位修繕」で対応し80年まで使用することを前提とした整備を行います。

図 16 築年数 40 年以上経過している施設の改修イメージ



第7章 学校施設整備の基本的な方針等

1 将来の学校施設の在り方及び少子化に伴う施設の検討

今後、少子化に伴う児童生徒数の減少だけでなく、市全体の人口高齢化が進む中で、教育施設等をこれまでと同様の手法で整備していくことは次第に困難な状況となることが予想されます。

今後は、教育施設の在り方や管理運用手法の仕組み等とコスト縮減により、市民ニーズを満たすことのできる教育施設の確保に向けた取組を進めることが重要です。

① 施設規模の縮減と汎用性・効率性の高い施設の整備

本市の児童生徒数が減少傾向にあることを考慮し、建物の改築を行う際には、その時点における児童生徒数推計等を踏まえて、個々の施設機能を満たすために必要かつ適正な規模での在り方を検討していきます。

また、その後の児童生徒数が減少傾向となる情勢を考慮し、学校施設以外への用途転用や不要部分の切離し（減築）等が可能な柔軟性のある施設整備や、効率的な増改築方法等についても、検討していくこととします。

② 時代のニーズを取り入れた教育施設の適正配置

多様な学習内容やＩＣＴ化対応などを考慮し、より良い教育環境の整備と教育の質的な向上を図るため、教育施設等の適正規模及び適正配置の検討を行い、施設総量の更なる縮減を図っていきます。

また、教育施設等の目標使用年数や改修時期、施設規模等も考慮して、適正配置の具体的な検討を進めることは、改修費用等を縮減することも可能となることから、相互に連動する形で、検討を進めていきます。

③ 施設の複合化

児童生徒数の減少により生じた余剰スペース等については、資産の有効活用等の観点から、施設の複合化を検討していきます。

・公共施設との複合化

従来備わっていた学校施設における地域活動の場としての役割なども踏まえ、地域の公共施設との複合化について検討していきます。

④ 学校施設等の跡地や既存施設の活用

適正配置の取組により生じた施設跡地や既存施設については、財源の確保や資産の有効活用の観点から、売却・貸付け等も含め総合的な観点から利活用方策を検討していきます。

2 施設の適正規模の検討

適正規模・適正配置の検討に当たっては、市民ニーズ、地域の実情等を見極めつつ、統廃合を含め、適正規模・適正配置を検討していくことが重要であり、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」などを参考にしながら、以下に示す視点に留意し、適正規模の検討を進めていきます。

▼保護者、地域、行政の協力体制

▼隣接校との統合、適地での新築

▼学校規模・学級数

▼通学区域の再編、通学距離・通学時間、通学手段、スクールバスの活用

▼廃校の校舎・跡地の利活用

▼余裕教室・空き施設の利活用

▼地域のコミュニティ

＜参考 1＞学校規模の標準（学校教育法施行規則第41条、第79条）

法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされているが、この標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっている。

参考：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引/文部科学省

＜参考 2＞望ましい学級数の考え方

小学校では、まず複式学級を解消するためには少なくとも1学年1学級以上（6学級以上）であることが必要。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには1学年2学級以上（12学級以上）あることが望ましい。

中学校についても、少なくとも1学年2学級以上（6学級以上）が必要。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも9学級以上を確保することが望ましい。

参考：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引/文部科学省

＜参考 3＞学級数が少ないことによる学校運営上の課題

一般に、学級数が少ない学校においては、児童生徒数や教職員数が少なくなることによる影響も含め、次のような学校運営上の課題が生じる可能性がある。

- ①クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ②クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③通常より教員を多く配置すること（加配）なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。
- ⑥男女比の偏りが生じやすい。
- ⑦上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑧体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑨班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑩協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑪教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑫生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑬児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑭教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

参考：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引/文部科学省

＜参考 4＞小規模校のメリット

一般に、小規模校には次のようなメリットが存在すると言われている。

- ①一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ②意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。
- ④複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる。
- ⑤運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑥教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である。
- ⑦異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑧地域の協力が得られやすいため、郷土的教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。
- ⑨児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

参考：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引/文部科学省

3 今後の学校施設の検討

当面現在の配置を維持するものとしますが、少子化と人口減少の加速から、今後の更なる児童生徒数の減少により、単学級の学年が徐々に増加し、余裕教室が増加していくと予想されます。

学校施設の規模や適正配置については、地域の実情に応じて、余裕教室など空きスペースの有効活用、または不要となった一部施設の減築、他の公共施設との複合化・共用化、学校施設の統廃合など様々な方向性が考えられます。

そのため、老朽化に伴う改修工事の実施時期に合わせた小・中学校の統廃合を検討するなど、本計画の検討結果を踏まえながら、無駄のない施設配置の方向性について検討していきます。

今後、他の公共施設との複合化・共用化、学校施設の統廃合に関する検討は別途進め、適宜長寿命化計画に反映します。

第8章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

1 改修等の整備水準

本市の学校施設は建設後30年以上を経過した施設が多く、経過年数による建物の老朽化が進行しており、外壁部材の落下や躯体強度の低下など安全面への対応が必要となっています。また、建設当時は一般的な整備水準であった施設も、現代の教育制度で求められるＩＣＴ化や省エネルギー性、バリアフリー等の社会的要求への対応が難しくなっています。

そのため、「第6章 保全に係る基準等の設定」で示したように、これまでの改築中心の考え方から、予防保全的な改修を行い施設の長寿命化を図る考え方に改め、老朽化した設備を現代の技術水準で更新することで設備の性能向上を図り、現代の社会的要求に対応できるよう、「安全面」「機能面」「環境面」「財政面」の4つの視点に基づき、施設改修を実施するものとします。

項目	内容
安全面	部材の経年劣化による外壁・窓などの落下、鉄筋の腐食やコンクリートの劣化による構造体としての強度の低下、ガス・水道・電気の設備配管等の劣化等、安全面の低下に配慮します。また、災害発生時に避難場所となる役割を担っており、施設自体の耐震性・安全性に加え、避難場所として必要な機能確保にも配慮します。 【整備項目例】 ・ 躯体のクラック補修 ・ 屋上防水改修、外装吹き付け材改修（耐久性の向上） ・ 内装全面改修（床、壁、間仕切り等） ・ 非常用発電設備の設置（体育館） ・ アスベスト等の除去等
機能面	教育内容・方法の多様化に伴い、少人数指導やＩＣＴを活用した教育に適応した整備を目指すとともに、老朽化したトイレの改修による衛生面の改善や、障がい者の利用しやすいバリアフリー化への対応など、機能的な施設づくりに配慮します。 【整備項目例】 ・ 多様な学習内容・学習形態へ対応した教室等整備 ・ コンピューター等のハードウェア整備の更新 ・ トイレ改修（洋式化、乾式化） ・ バリアフリー対応（段差の解消） ・ 空調換気、給排水管等の更新等
環境面	壁や窓等の断熱化による冷暖房の効率化や、照明機器等の省エネルギー化による使用電力量の抑制、二酸化炭素排出量の削減など、エコ改修の推進により環境面に配慮します。 【整備項目例】 ・ 断熱性の向上（壁、開口部） ・ 遮音性の向上（壁、開口部） ・ 設備の高効率化（ＬＥＤ化、人感センサー等）等
財政面	改築中心の考え方から施設の長寿命化へと考え方を改め、将来における施設の更新費用負担を軽減させるとともに、建築経費の縮減と財政負担の平準化に配慮します。

2 維持管理の水準・手法等

①日常点検や定期点検の推進

学校施設は、児童生徒等の学習・生活の場であるとともに、災害時には避難所としての役割を担っており、日常はもとより災害時においても十分な安全性・機能性を有することが求められます。

しかし、経年劣化等により、突然外壁や軒・天井板等が落下するなどの児童生徒に危険が及ぶ事故が発生する可能性があり、重大な事故のリスクを事前に低減しておくことが重要です。

そのため、対症療法的な事後保全を行うだけでなく、劣化の状況を予測し、適切な時期に更新や修繕を行うなど、事故の発生前に対処して、施設の機能を常に正常な状態に維持していく「予防保全」を推進する必要があります。

「予防保全」を的確に推進するためには、重要な部位又は設備について、適切な時期に適切な点検・診断を行い、発見された不具合については速やかに補修していく事が重要です。そのためには、日常点検や定期点検による管理を重視し、これらの点検を施設管理の基本サイクルに入れていく必要があります。

【点検対象となる建物の部位（例）】

- ・屋上・屋根
- ・外壁
- ・外部建具（窓、扉等）
- ・受変電設備
- ・太陽光発電設備
- ・空調設備（エアコン）
- ・消防用設備（自動火災報知設備、屋内消火栓設備、消火器、誘導灯等）
- ・給排水衛生設備（屋内給水設備、ポンプ類等）等

②実施体制

これまで実施してきた専門業者による定期的な点検を継続するとともに、教職員による日常的な点検を更に充実させるものとします。

なお、現在、教職員による点検が行われていますが、点検内容の一層の充実を目指し、文部科学省が作成した「安全で快適な学校施設を維持するために」に則した点検を行うものとします。

点検・調査	調査者	実施時期	実施状況
日常的な点検	教職員	毎日	随時見回り
定期点検 （法定点検）	専門業者	定められた期間毎	建築基準法第12条点検 消防設備点検

点検設備	症状	危険性	留意点
天井	●天井ボードが外れ、落ちかけている ●天井にシミができた	●剥がれかかった天井ボード等は落下の危険性あり	●天井のシミは漏水などが考えられるので、専門家による調査が必要
内壁	●壁モルタルに亀裂が入った ●ボードが割れた ●トイレなどでタイルが割れた、剥がれた	●モルタル等が欠け落ちてくる可能性あり	●木製扉のささくれ、クギ等の突起物は怪我の原因となるため、措置が必要
床	●シートが剥がれた、摩耗した ●タイルが剥がれた、割れた ●階段の滑り止め金具が外れた	●床の損傷は転倒など、怪我の原因になる	●放置すると損傷が広がる可能性があるため、応急措置が必要 ●床は濡れたままにすると剥がれ、割れ等の原因になるため、その都度ふき取ることが大切
外壁	●外壁、庇に亀裂が入った ●外壁のモルタルが落ちてきた ●鉄筋が露出している	●モルタルが落下する危険性があり、放置すると損傷の範囲が拡大	●児童生徒が近づかないようなバリケードを設置する等の措置が必要 ●専門家による調査が必要
屋外遊具施設等	●屋外の鉄製の遊具施設にサビがでている ●国旗掲揚ポールの固定部分、根本が腐食している ●鉄棒等にグラつきがある	●鉄の腐食は進行が早く、突然倒壊する可能性あり	●遊具施設は直接雨風にさらされ、乱暴に扱われることがあるため、グラつかないか、ボルトが緩んでいないか等の点検が必要
屋外階段	●階段手すりがグラつく ●鉄骨階段にサビが発生した	●手すり踏み板などの痛みが著しい場合、緊急時に避難する際、転倒するなど支障となる	●手すりのサビ、グラツきの点検が必要 ●サビが進行しないように塗装の塗り替えを行うことが必要

第9章 長寿命化計画の策定

1 保全優先度の設定

①優先順位付けの基本的な考え方

長寿命化改修及び大規模改造工事は棟単位で行うことを基本とし、優先順位付けの基本的な考え方については次の点を考慮します。

▼本計画における劣化状況調査の結果（健全度）

▼築年数

▼過去の改修履歴

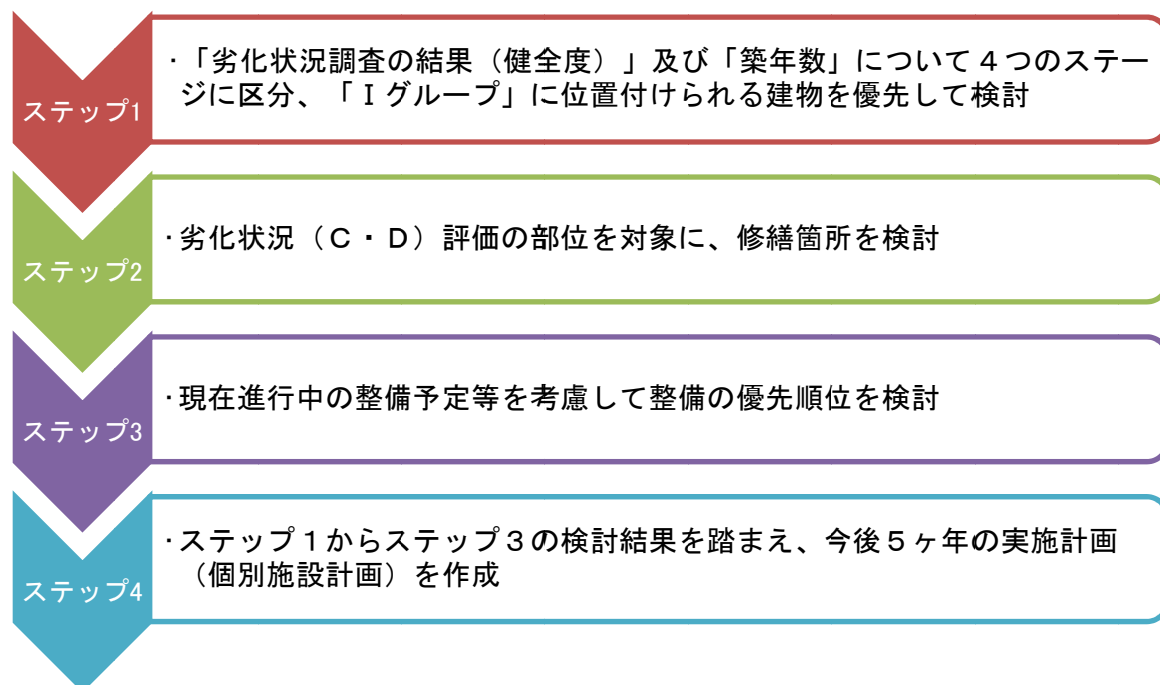
▼その他今後の学校整備計画で考慮すべき理由

優先順位の設定に当たっては、第1段階では前述した「劣化状況調査結果（健全度）」及び「築年数」について、4つのステージに分けて、Iグループに位置付けられる建物を優先することとします。

続いて、上記の優先順位設定に続き、劣化状況評価の健全度ポイントや、屋根・屋上、外壁、内部仕上り、設備の劣化状況評価度D及びCを対象に、修繕周期なども踏まえて検討します。

最後に、これらの結果に加え、現在進行中の整備予定等を考慮した実施計画を策定します。

図17 優先度の設定フロー

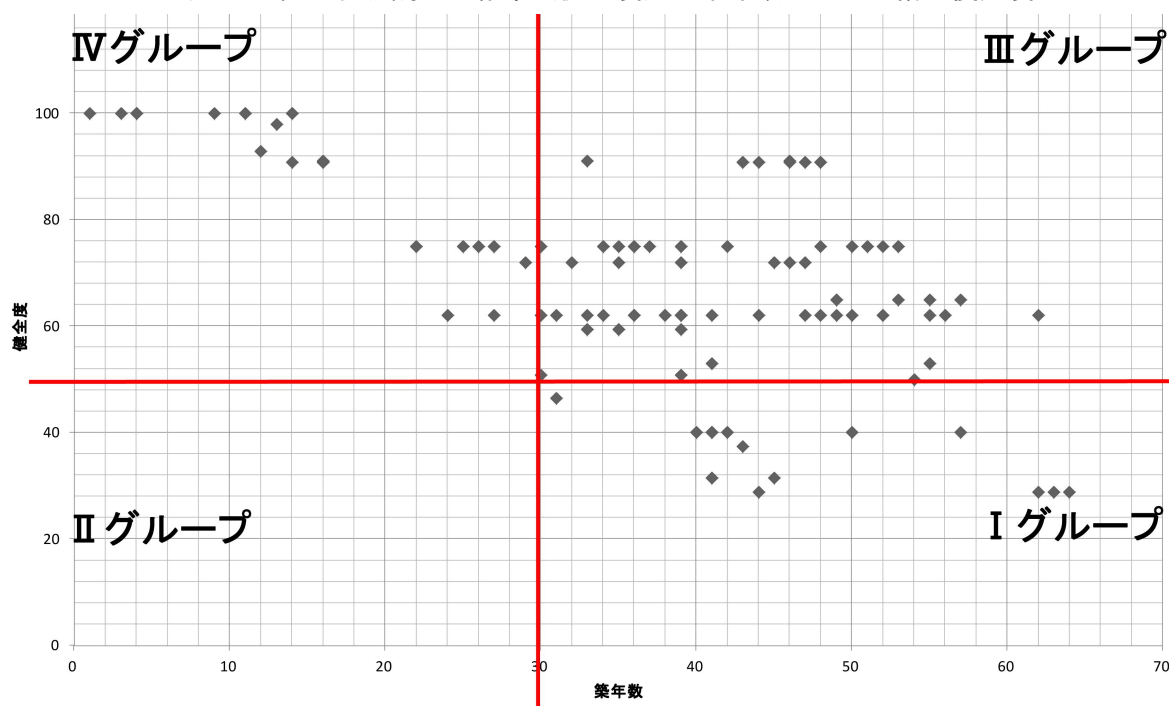


②優先順位に向けた考察

対象施設の「劣化状況調査の結果（健全度）」と「築年数」で区分した場合、健全度50点以下で築30年以上の「Ⅰグループ」については、早期に大規模な改修等を図る必要があると考えられます。

「Ⅱグループ」「Ⅲグループ」及び「Ⅳグループ」については、「築年数」や劣化状況評価（D・C）評価の進行状況に着目して、適切な時期に修繕を行っていくものとします。

図 18 劣化状況調査の結果（健全度）と築年数による整備の優先度



整備優先順位付けの結果

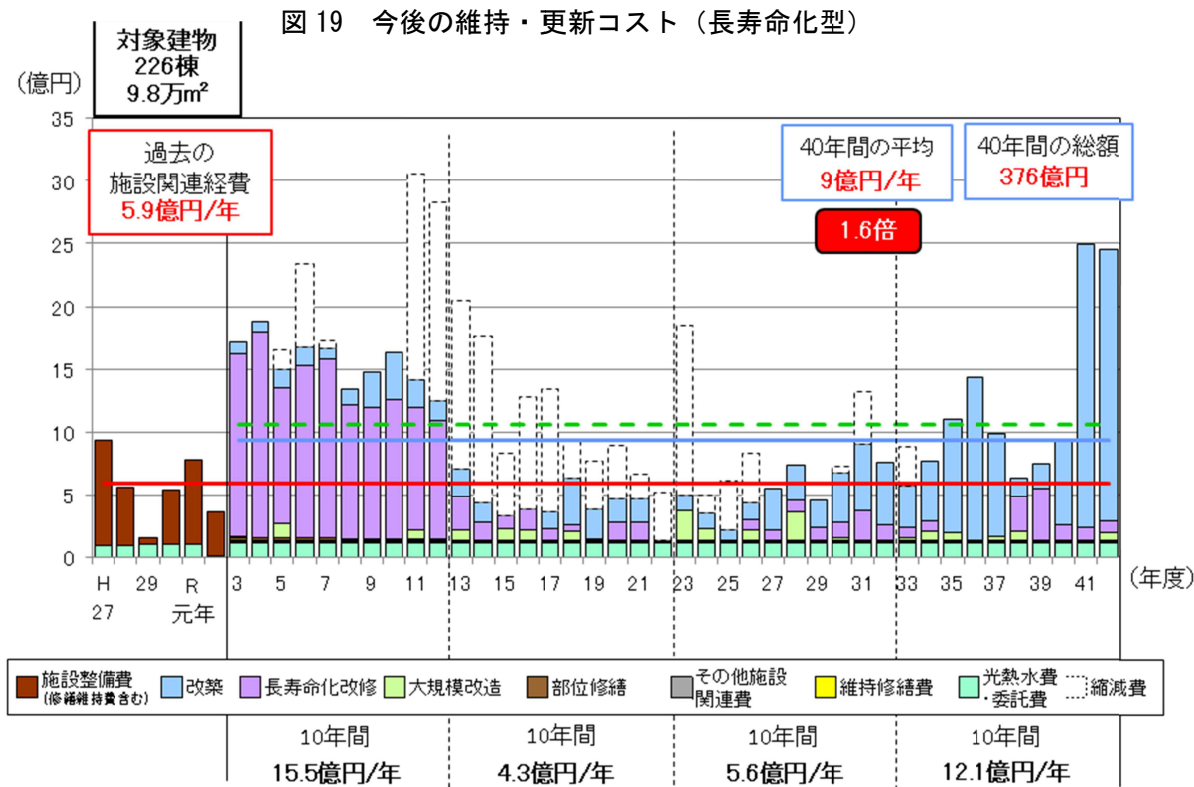
グループ	学校調査 番号	施設名	棟番号	建物用途	築年数	屋根・屋 上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点 満点)	備考
I	1604	細島小学校	1-1	校舎	62	D	D	C	C	C	29	改築R2～3
I	1604	細島小学校	1-2	校舎	64	D	D	C	C	C	29	改築R2～3
I	1604	細島小学校	1-3	校舎	63	D	D	C	C	C	29	改築R2～3
I	4602	岩脇中学校	14	校舎	44	D	D	C	C	C	29	未利用
I	1602	日知屋小学校	25	校舎	45	C	D	C	C	C	31	未利用
I	1602	日知屋小学校	31	校舎	41	C	D	C	C	C	31	
I	1614	財光寺南小学校	1	校舎	41	C	D	C	C	C	31	
I	1603	財光寺小学校	22	校舎	43	D	C	C	C	C	37	
I	1613	日知屋東小学校	1-1	校舎	42	C	C	C	C	C	40	
I	1613	日知屋東小学校	1-2	校舎	40	C	C	C	C	C	40	
I	1613	日知屋東小学校	5	校舎	41	C	C	C	C	C	40	
I	1613	日知屋東小学校	6	体育館	41	C	C	C	C	C	40	
I	1614	財光寺南小学校	2	校舎	41	C	C	C	C	C	40	
I	1614	財光寺南小学校	3	校舎	41	C	C	C	C	C	40	
I	1614	財光寺南小学校	8	体育館	41	C	C	C	C	C	40	
I	1637	坪谷小学校	10	体育館	50	C	C	C	C	C	40	
I	1639	寺迫小学校	1	校舎	40	C	C	C	C	C	40	
I	1639	寺迫小学校	8	体育館	57	C	C	C	C	C	40	
I	1639	寺迫小学校	9	体育館	42	C	C	C	C	C	40	
I	4601	富島中学校	1-2	校舎	41	C	C	C	C	C	40	
I	1603	財光寺小学校	31	校舎	31	D	C	C	B	B	46	
I	4601	富島中学校	18	校舎	54	C	B	C	C	C	50	
III	4602	岩脇中学校	18	校舎	39	D	D	B	B	B	51	未利用
III	4602	岩脇中学校	22	校舎	30	D	D	B	B	B	51	未利用
III	4603	美々津中学校	16-4	校舎	41	B	B	C	C	C	53	
III	4613	東郷中学校	4	校舎	55	B	B	C	C	C	53	
III	1637	坪谷小学校	14	校舎	39	D	C	B	B	B	59	
III	4602	岩脇中学校	21-1	体育館	33	D	C	B	B	B	59	未利用
III	4602	岩脇中学校	21-2	体育館	33	D	C	B	B	B	59	未利用
III	4606	大王谷中学校	8-1	体育館	35	D	C	B	B	B	59	
III	4606	大王谷中学校	8-2	体育館	35	D	C	B	B	B	59	
III	1603	財光寺小学校	1-1	校舎	62	C	C	B	B	B	62	大規模改修H6
III	1603	財光寺小学校	1-2	校舎	56	C	C	B	B	B	62	大規模改修H6
III	1603	財光寺小学校	1-3	校舎	52	C	C	B	B	B	62	大規模改修H6
III	1603	財光寺小学校	15	校舎	50	C	C	B	B	B	62	大規模改修H6
III	1604	細島小学校	11	体育館	52	C	C	B	B	B	62	大規模改修S62
III	1606	平岩小学校	11-1	校舎	49	C	C	B	B	B	62	大規模改修H9
III	1606	平岩小学校	11-2	校舎	48	C	C	B	B	B	62	大規模改修H9
III	1606	平岩小学校	16	校舎	44	C	C	B	B	B	62	大規模改修H9
III	1611	大王谷小学校	1-1	校舎	47	C	C	B	B	B	62	大規模改修H10
III	1611	大王谷小学校	1-2	校舎	41	C	C	B	B	B	62	大規模改修H10
III	1611	大王谷小学校	13	校舎	39	C	C	B	B	B	62	
III	1614	財光寺南小学校	12	校舎	34	C	C	B	B	B	62	
III	4601	富島中学校	1-1	校舎	55	C	C	B	B	B	62	大規模改修H4
III	4601	富島中学校	1-3	校舎	39	C	C	B	B	B	62	
III	4604	日向中学校	35	校舎	30	C	C	B	B	B	62	
III	4605	財光寺中学校	1	校舎	39	C	C	B	B	B	62	
III	4605	財光寺中学校	2-1	校舎	39	C	C	B	B	B	62	
III	4605	財光寺中学校	2-2	校舎	39	C	C	B	B	B	62	
III	4605	財光寺中学校	2-3	校舎	39	C	C	B	B	B	62	
III	4605	財光寺中学校	3	校舎	39	C	C	B	B	B	62	
III	4605	財光寺中学校	7	体育館	38	C	C	B	B	B	62	
III	4605	財光寺中学校	8	校舎	38	C	C	B	B	B	62	
III	4605	財光寺中学校	10	校舎	33	C	C	B	B	B	62	
III	4606	大王谷中学校	1	校舎	36	C	C	B	B	B	62	
III	4606	大王谷中学校	4	校舎	36	C	C	B	B	B	62	
III	4606	大王谷中学校	5	校舎	36	C	C	B	B	B	62	
III	4606	大王谷中学校	12	校舎	31	C	C	B	B	B	62	
III	1601	富高小学校	17	体育館	53	B	C	B	B	B	65	大規模改修H2
III	1602	日知屋小学校	1-1	校舎	57	B	C	B	B	B	65	大規模改修H5
III	1602	日知屋小学校	1-2	校舎	55	B	C	B	B	B	65	大規模改修H5
III	1602	日知屋小学校	2	校舎	49	B	C	B	B	B	65	大規模改修H5
III	1603	財光寺小学校	16	体育館	49	B	C	B	B	B	65	大規模改修H7

グループ	学校調査 番号	施設名	棟番号	建物用途	築年数	屋根・屋 上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点 満点)	備考
Ⅲ	1606	平岩小学校	14	校舎	46	C	B	B	B	B	72	大規模改修H12
Ⅲ	1609	美々津小学校	23	校舎	32	C	B	B	B	B	72	
Ⅲ	1610	美々津小学校 田 の原分校	13	体育館	35	C	B	B	B	B	72	
Ⅲ	1611	大王谷小学校	2	校舎	47	C	B	B	B	B	72	大規模改修H11
Ⅲ	1611	大王谷小学校	6	体育館	45	C	B	B	B	B	72	大規模改修H8
Ⅲ	1611	大王谷小学校	14	校舎	39	C	B	B	B	B	72	
Ⅲ	1601	富高小学校	26	校舎	37	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	1601	富高小学校	32	校舎	36	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	1601	富高小学校	33	校舎	36	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	1601	富高小学校	35	校舎	36	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	1602	日知屋小学校	16	体育館	51	B	B	B	B	B	75	大規模改修H6
Ⅲ	1606	平岩小学校	18	校舎	35	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	1609	美々津小学校	12-1	体育館	42	B	B	B	B	B	75	大規模改修H12
Ⅲ	4601	富島中学校	17-1	校舎	53	B	B	B	B	B	75	大規模改修H3
Ⅲ	4601	富島中学校	17-2	校舎	52	B	B	B	B	B	75	大規模改修H3
Ⅲ	4601	富島中学校	17-3	校舎	39	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	4601	富島中学校	20	校舎	51	B	B	B	B	B	75	大規模改修H3
Ⅲ	4601	富島中学校	36	校舎	39	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	4602	岩脇中学校	23	校舎	30	B	B	B	B	B	75	未利用
Ⅲ	4603	美々津中学校	16-1	校舎	53	B	B	B	B	B	75	大規模改修H8
Ⅲ	4603	美々津中学校	16-2	校舎	50	B	B	B	B	B	75	大規模改修H8
Ⅲ	4603	美々津中学校	16-3	校舎	48	B	B	B	B	B	75	大規模改修H8
Ⅲ	4603	美々津中学校	29	校舎	34	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	4603	美々津中学校	30	校舎	34	B	B	B	B	B	75	
Ⅲ	1603	財光寺小学校	18	校舎	48	B	B	A	A	A	91	大規模改修H17
Ⅲ	1603	財光寺小学校	23	校舎	43	B	B	A	A	A	91	大規模改修H17
Ⅲ	1603	財光寺小学校	24	校舎	43	B	B	A	A	A	91	大規模改修H17
Ⅲ	1605	塩見小学校	1	校舎	47	B	B	A	A	A	91	大規模改修H13
Ⅲ	1605	塩見小学校	6-1	体育館	44	B	B	A	A	A	91	大規模改修H16
Ⅲ	4604	日向中学校	18	校舎	48	B	B	A	A	A	91	大規模改修H16
Ⅲ	4613	東郷中学校	1	校舎	46	B	B	A	A	A	91	大規模改修H15
Ⅲ	1605	塩見小学校	2	校舎	46	B	B	A	A	A	91	大規模改修H14
Ⅲ	1605	塩見小学校	10	校舎	33	B	B	A	A	A	91	大規模改修H13
Ⅳ	1637	坪谷小学校	12	体育館	24	C	C	B	B	B	62	
Ⅳ	4605	財光寺中学校	13	校舎	27	C	C	B	B	B	62	
Ⅳ	4601	富島中学校	45	体育館	29	C	B	B	B	B	72	
Ⅳ	4601	富島中学校	46	校舎	27	B	B	B	B	B	75	
Ⅳ	4603	美々津中学校	36	校舎	27	B	B	B	B	B	75	
Ⅳ	4603	美々津中学校	37-1	体育館	22	B	B	B	B	B	75	
Ⅳ	4603	美々津中学校	37-2	体育館	22	B	B	B	B	B	75	
Ⅳ	4604	日向中学校	39	その他	25	B	B	B	B	B	75	
Ⅳ	4605	財光寺中学校	15	その他	25	B	B	B	B	B	75	
Ⅳ	4606	大王谷中学校	15	その他	26	B	B	B	B	B	75	
Ⅳ	4613	東郷中学校	16	武道場	26	B	B	B	B	B	75	
Ⅳ	1605	塩見小学校	6-2	体育館	16	B	B	A	A	A	91	
Ⅳ	1610	美々津小学校 田 の原分校	19	校舎	16	B	B	A	A	A	91	
Ⅳ	1613	日知屋東小学校	10	校舎	16	B	B	A	A	A	91	
Ⅳ	1613	日知屋東小学校	11	校舎	14	B	B	A	A	A	91	
Ⅳ	1613	日知屋東小学校	9	校舎	16	B	B	A	A	A	91	
Ⅳ	4613	東郷中学校	19	体育館	12	A	B	A	A	A	93	
Ⅳ	1609	美々津小学校	12-2	体育館	13	B	A	A	A	A	98	
Ⅳ	1601	富高小学校	38	校舎	1	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	1606	平岩小学校	23	体育館	11	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	1635	東郷小学校	23	校舎	9	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	4602	岩脇中学校	27	校舎	14	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	4602	岩脇中学校	28	校舎	14	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	4602	岩脇中学校	29	体育館	11	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	4604	日向中学校	40	校舎	4	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	4604	日向中学校	41	校舎	4	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	4604	日向中学校	42	校舎	4	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	4604	日向中学校	43	校舎	4	A	A	A	A	A	100	
Ⅳ	4604	日向中学校	44	体育館	3	A	A	A	A	A	100	

2 今後の維持・更新コスト（長寿命型）

改修等の優先順位付けを考慮し、長寿命化改修を実施した場合、今後 40 年間の維持・更新コストは総額 376 億円（9 億円/年平均）となります。

「従来型」から「長寿命型」に変更することで、従来型（総額 424 億円）より 48 億円の経費削減が期待できます。



主な整備費は以下のとおり試算しています。

改築等単価

区分	周期	校舎	体育館・武道場	備考
改築	80年	33.0 万円/㎡	36.0 万円/㎡	単価は、公共施設等更新費用資産ソフト仕様書（平成28年版）より
長寿命化改修	40年	19.8 万円/㎡	21.6 万円/㎡	改築費の60%
大規模改造	25年	8.25 万円/㎡	7.92 万円/㎡	改築費の25% (体育館・武道場は22%)

※長寿命化改修、大規模改造の単価は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（平成29 年3 月 文部科学省）付属のエクセルソフトを参考に、改築費に対する割合で設定しています。

そのため実際の単価とは異なります。実際の単価は、過去の工事や社会情勢を考慮し、検討を行います。

3 今後の実施計画

今後の市の財政状況等を勘案し、直近の5年間においては、具体的な整備計画がある建物、保全優先度Ⅰ・Ⅲグループに位置付けられる建物、屋上・屋根、外壁、内部仕上のいずれかに劣化評価Dがある建物等を優先し、改修・修繕を実施するものとします。

図 20 今後5か年の整備計画

年度 事業名称		2021 R3		2022 R4		2023 R5		2024 R6		2025 R7		(百万円)
		学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	
施設 整備 費	新増築事業											
	改築事業	細島小学校(Ⅱ期)	964									
	耐震化事業 (非構造部材の 対策含む)											
	長寿命化改修											
	大規模改造(老朽)	【設計】日知屋小学校(31号棟) 【設計】財光寺小学校(22.31号棟)	14 10	【工事】日知屋小学校(31号棟) 【工事】財光寺小学校(22.31号棟) 【設計】日知屋東小学校(5号棟) 【設計】財光寺中学校(1.8号棟)	371 261 11 11	【工事】日知屋東小学校(5号棟) 【工事】財光寺中学校(1.8号棟) 【設計】日知屋東小学校(6号棟) 【設計】財光寺南小学校(8号棟) 【設計】財光寺中学校(7号棟)	277 301 7 7 7	【工事】日知屋東小学校(6号棟) 【工事】財光寺南小学校(8号棟) 【工事】財光寺中学校(7号棟) 【設計】日知屋東小学校(1号棟) 【設計】大王谷中学校(8号棟)	178 178 179 17 7	【工事】日知屋東小学校(1号棟) 【工事】大王谷中学校(8号棟) 【設計】財光寺南小学校(1号棟) 【設計】大王谷中学校(1号棟)	463 167 10 11	
	防災関連事業											
	トイレ整備		14		14		14		14			
	空調整備											
	障害児等対策											
	特別支援学校の整備											
	部位修繕		26		30		29		30		33	
	その他施設整備費											
	維持修繕費		8		8		8		8		8	
	光熱水費・委託費		106		106		106		106		106	
	合 計		1,142		812		756		717		798	

※各年度の実施内容や予算化は別途調整を行います。

第10章 長寿命化計画の継続的運用方針

1 施設情報の整理

本計画を進めるに当たり、適切な見直しが必要であり、学校施設における過去の改修・修繕履歴や当該施設の実態を把握することが重要になります。

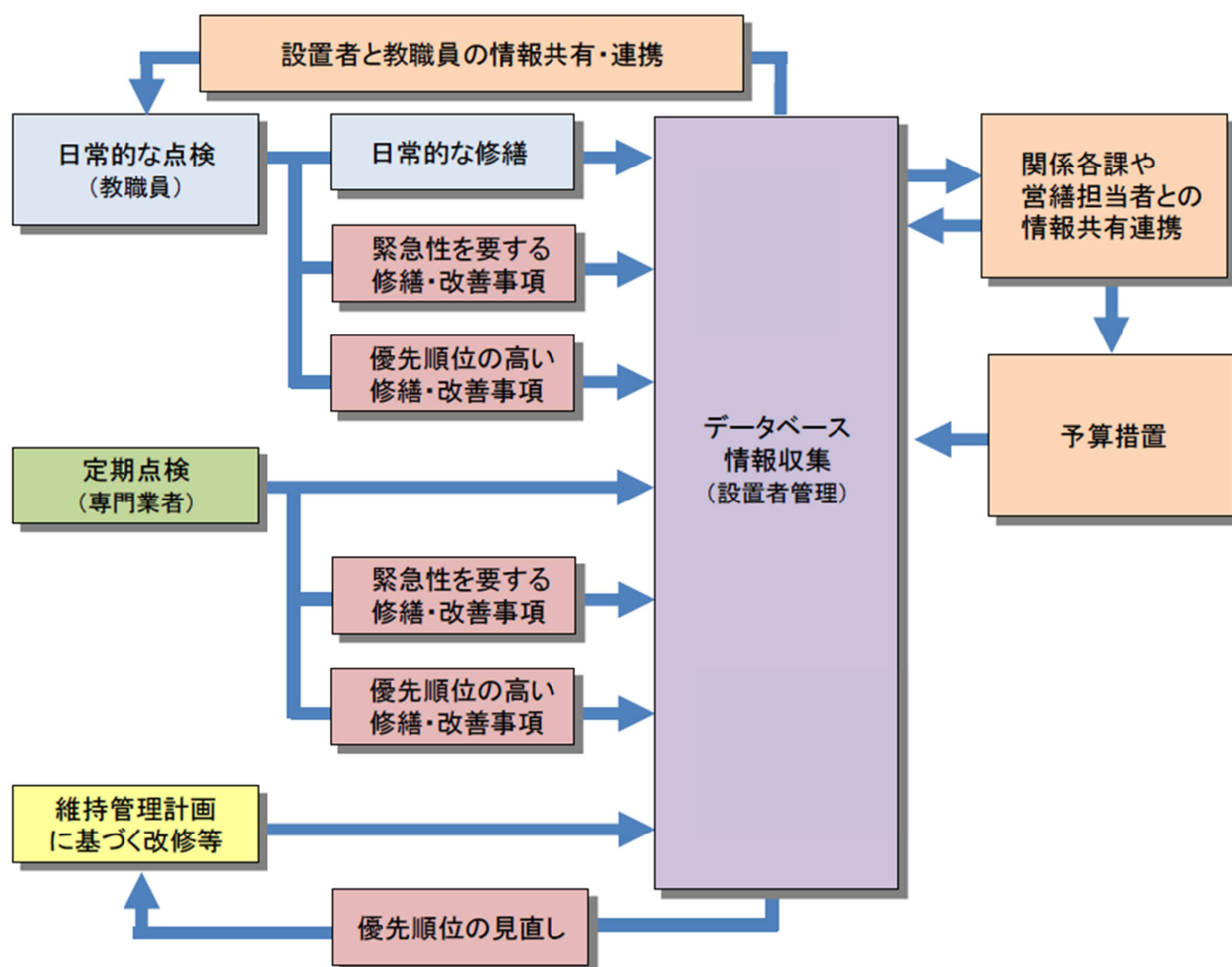
そのためには、定期点検等において把握した点検・調査結果を基にしながら、施設の状況や過去の改修履歴、職員からの修繕要望や不具合状況等を一元管理するデータベースの運用が効果的です。

2 推進体制等の整備

上記で述べたデータベースを効果的に運用するには「学校・設置者・専門業者」の協力と連携体制が重要となります。

日常的な点検や定期点検により明らかとなる緊急性を要する修繕・改善事項、優先順位の高い修繕・改善事項などの情報をデータベースに集積し、その情報を庁内関係課や営繕担当者、各学校と共有して連携を図るとともに、長寿命化計画に反映させ優先順位を見直すことで、より効果的な整備メニューの検討や改修計画の見直し等が期待できます。

図 21 データベースイメージ



3 フォローアップ

本計画は40年間という長期の計画であり、児童生徒数の推移、財政状況や学校を取り巻く環境の変化、地域の実情に配慮した適正規模・配置等に対応する必要があるため、総合管理計画の見直しに伴いPDCAサイクルによるフォローアップを実施することとします。

図 22 PDCAサイクルの運用による進捗管理のイメージ

